

令和元年度指定

地域との協働による  
高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)

# 研究開発実施報告書(3年次)



令和4年3月 熊本県立上天草高等学校

## 巻頭言

令和元年度（2019年度）より文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の指定を受けて始まった本校の「K#Amax(ケー・イー・マックス)」の取組も3年が経ち、指定期間が終了することとなりました。この間多くの方々の御支援の下、様々な活動を行って参りました。

本取組の背景として、熊本市以外の県立高校の多くがそうであるように、本校も生徒数の減少という大きな課題に直面し、学校の魅力向上や教育活動の対外的発信の強化に取り組まなければならないという切実な事情がありました。また、この現状の根底には本校の立地する上天草市自体が人口減少の深刻化という状況を抱え、本校の入学者の99%が上天草市内の中学校からという実情を考えたとき、数十年後の自治体の在り方の命運を本校が握っているといっても過言ではないという実態があったのです。

こうした経緯を踏まえ、K#Amaxのテーマを「『ひと・もの・資源の宝庫』上天草で未来を切り拓くリーダーの育成」に定め、上天草市を始めとする地域の関係機関等の全面的な協力を得て、地域課題解決のためのビジネスプランを作成するという活動に取り組みました。地域の方が生徒に直接指導するために本校を訪れるという光景はいつしか特別なことではなくなり、生徒たちも地域に飛び出し、地域の方々と触れて、地域の様子を取材、調査をすることが日常なこととなっていきました。さらには、上天草市内の各中学校でも期を同じくして起業家教育が始まり、中学校に本校生が助言や協力に出向くという中高連携も行いました。このような取組は生徒の意識面の確かな変容をもたらしました。

本事業の一環として今年度生徒に行ったアンケートでは、「高校卒業後地元で就業したいと考えている」生徒は72.3%、「大学等進学後、将来地元に戻って就業したいと考える」生徒は47.6%と、事業初年度から3年間でそれぞれ10ポイント近くの上昇を確認することができました。行動面での変化も見られました。別のアンケートでは、「地域社会でボランティアに参加した」と答えた生徒が約6割いて、他校平均より14ポイント以上高い結果が見られました。このような結果から言えることは、生徒たちは自身の住む地域に関心を有し、地域のために自分ができることをしようとする意欲を持ち始めているということではないでしょうか。郷土愛の涵養を図ることができたと表現してもよいでしょう。

加えて、学校教育に地域人材が参画することは、学校の風通しを良いものとし、学校外部の視点の導入によって教師が普段の自身の指導の在り方を振り返るという機運の醸成も促しました。教師も学びの機会を得て、地域への理解を深め、そのことが結果的にこの地域で生まれ育った生徒たちへのより深い理解につながるという効果をもたらされたにとらえています。

以上のような成果を得た取組ですので、指定期間はこれで終了しますが、来年度以降も活動は継続することとしています。K#Amaxの本格的な活動がこれから始まる、そう呼んでもいいかもしれません。そして、冒頭述べたように、この活動に取り組んだ生徒たちが数十年後、上天草の地で多様な分野で活躍しているということが実現した時、この活動の真の成果が得られた瞬間となるのです。それを信じ、私たちは生徒たちとともに、一つ一つのプログラムを楽しみながら、今後も活動し続けて参ります。

最後になりましたが、今年度の本校の取組に対しまして、上天草市をはじめとする各所の関係の方々から、多大なる御支援御協力をいただきましたことに深甚なる感謝を申し上げますとともに、今後の更なる御指導御鞭撻と、本書をご覧いただいた皆様からの御助言を心より祈念申し上げます。巻頭の御挨拶といたします。

令和3年3月

熊本県立上天草高等学校

校長 田中 篤

## もくじ

巻頭言

もくじ

第1章 令和3年度研究開発完了報告書・目標設定シート.....	1
第2章 研究開発の概要 .....	14
第3章 研究開発の詳細 .....	16
1 総合的な探究の時間（学校設定科目） .....	16
(1) 上天草プロジェクト .....	16
(2) 地域起業研究.....	20
(3) 地域イノベーション研究.....	22
2 「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトによるカリキュラム・マネジメント...	24
3 上天草魅力化コンソーシアムとコーディネーター .....	26
4 上天草市における小中高一貫の起業家教育 .....	28
5 その他 .....	29
6 取組の継続 .....	30
第3章 資料集 .....	31
1 令和元年度入学生教育課程表 .....	31
2 各委員会議事録 .....	34
3 地域人材育成のルーブリック集計（令和3年度） .....	45
4 探究活動の自己評価ルーブリック .....	46

# 第1章 令和3年度研究開発完了報告書・目標設定シート

## 1 研究開発完了報告

管理機関名 熊本県教育委員会  
 代表者名 教育長 古閑 陽一

### 1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～ 令和4年3月31日

### 2 指定校名・類型

学校名 熊本県立上天草高等学校  
 学校長名 田中 篤  
 類型 地域魅力化型

### 3 研究開発名

「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成

### 4 研究開発概要

Society5.0に主体的に対応できる地域人材を育成するため、すべての教科で学びの根幹となる「聞く」「話す」「表現する」力を高めるプロジェクトを行う。これらの力を根底に据え、地域や大学等と協働した学校設定科目である「上天草プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「地域起業研究」「地域イノベーション研究」を軸としたカリキュラム開発を行い、「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成を行う。その際、上天草市内小中高が連携して推進している起業家教育を大きな柱とし、持続的な地域の発展を念頭に、様々な資源を活かし結びつけ、起業する人材が核となり、地域全体の意識の変革をもたらし、就業構造の変化につなげることも目標としている。課外活動についても地域との協働を強化し、「地域の知の最高学府」である上天草高校の魅力化を推進し、地域への課題意識や貢献意識を持ち、解決に向けて主体的に思考・行動する人材を育成していく。

### 5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目  開設している ・  開設していない
- ・教育課程の特例の活用  活用している ・  活用していない

### 6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
荒木 朋洋	東海大学 九州キャンパス長	学識経験者
田中 尚人	熊本大学 熊本創生推進機構 准教授	学識経験者
堀江 隆臣	上天草市 市長	関係行政機関の首長
足立 國功	熊本ソフトウェア株式会社 代表取締役社長 熊本県産業教育振興会 会長	産業教育に 専門的知識を有する
松富 浩之	熊本日日新聞社 上天草支局長	地元紙の支局長

### 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課	重岡 忠希
上天草高等学校	田中 篤

上天草市企画政策部	花房 博
上天草市観光おもてなし課	前方 正広
上天草市教育委員会学務課	赤瀬 耕作
上天草市教育委員	山下 勝一
上天草市商工会総務課	志村 俊和
上天草市社会福祉協議会地域福祉係	須中 一久
上天草市小中学校長会	福嶋 光浩
J Aあまくさ	水野 龍幸
天草漁業協同組合上天草総合支所	北岡 秀敏
上天草市区長連合会	福田 津奈男
天草ケーブルネットワーク メディア事業部	芥川 琢哉
上天草市危機管理情報課	松尾 伸之
天草四郎観光協会	杉本 健一
東海大学フェニックスカレッジ熊本	小田 心一
カリキュラム開発等専門家 地域協働学習実施支援員	元田 有祈

#### 8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	元田 有祈	元田農業(株)・代表取締役	非常勤
地域協働学習実施支援員	元田 有祈	元田農業(株)・代表取締役	非常勤

#### 9 管理機関の取組・支援実績

##### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会							書面 開催					開催
コンソーシアム 委員会				開催								開催
カリキュラム 開発等専門家	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用	雇用
地域協働 学習支援員	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱	委嘱

##### (2) 実績の説明

###### ①運営指導委員会について

研究内容の指導、経過の確認、結果の評価及びコンソーシアムに対して第三者的な視点から指導助言をいただいている。今年度は、コロナ禍のため第1回会合を書面での意見集約とし、今年度取り組むべき課題とその解決策に対するご意見をいただいた。第2回会合（研究成果発表会）も対面での実施ではなくオンラインでミーティングでの開催となった。「研究成果の発表に関する指導助言」につづき、パネルディスカッションを本校職員と関係者向けに開催し、3年間の取組の総括をおこなった。

###### ②コンソーシアムについて

コンソーシアムについては、本事業の意思決定機関であり、育てたい人材像を共有し、協働して人材育成に携わる機関と位置付けている。その役割として、育てたい人材像の策定・共有、学校設定科目を中心とした教科科目の指導計画策定への参画、事業の進捗状況

の管理・検証などを行っている。事業終了後は、コンソーシアムで得たノウハウを学校運営協議会で引き継ぐため、合同会議を開催した。

③カリキュラム開発等専門家および地域協働学習実施支援員について

カリキュラム開発等専門家は、非常勤として週4日程度勤務している。カリキュラムの開発・進捗状況の管理、授業における課題発見解決型学習等の地域連携の企画・実施支援を行っている。また、同一人物を地域協働学習支援員に指名し、学生時代に文部科学省で働いていた経験や、地域おこし協力隊として活動してきた経験を活かして、学校と地域などの外部をつなげ、地域の資源や地域外から地域に関わっている方を活用し、地域連携の企画・運営・実施支援を行っている。学校と地域を結ぶコーディネートだけでなく、生徒の探究活動のアドバイスや精神的なフォローまでマルチに活躍いただいている。

事業終了後も本校の取組に参画していただくだけでなく、その役割を複数の人材で分担できる仕組みを構築している。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域理解講座 先進出前講座 【上天PⅠ】 【地起研】 【地域イノベ】	1回	2回	3回			1回	2回			2回		
プロジェクト学習 【上天PⅠ】 【上天PⅡ】 【上天PⅢ】	3回	3回	8回	7回		11回	5回	6回	3回	4回		
マーケティング 商品開発 講座 【地起研】			3回	2回		4回	2回	3回				
プレゼンテーション 動画コンテンツ 作成講座 【地起研】	2回	2回	2回						1回	2回		
「聞く」「話す」 「表現する」 プロジェクト 公開授業週間			1回					1回				
「聞く」「話す」 「表現する」 プロジェクト ルーブリック評価			1回						1回			
エキスパート 生徒派遣										1回		
生徒成果発表 (全生徒対象)			1回						1回		1回	
研究成果発表											1回	

※業務項目の【 】内は実施する学校設定科目の略称。

【上天PⅠ】：上天草プロジェクトⅠ      【上天PⅡ】：上天草プロジェクトⅡ  
 【上天PⅢ】：上天草プロジェクトⅢ      【地起研】：地域起業研究  
 【地域イノベ】：地域イノベーション研究

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

(ア) 「上天草プロジェクト」をはじめとする探究活動の充実

探究活動の個別最適化と継続性（生徒間で研究とその成果を継承）を担保するために、上天草プロジェクトを同一時間に実施し、学年の垣根を越えたゼミ制を導入した。一斉で受講する講座を極力少なくし、生徒の興味・関心に合せた講師招聘で、より深い内容の知識習得と探究活動が可能になった。また、ゼミ内で学年を超えた共同研究で、長期にわたる探究活動を後輩に継承させることが可能になった。

ゼミ制の導入により、地域の専門家を招聘する機会が増え、地域人材との繋がり強化と職員の負担軽減を図った。

(イ) 新学習指導要領における地域人材育成を目指した授業改善への取組

昨年度までに完成させた「地域人材育成のルーブリック」を持続的に改善できる仕組み、「地域人材育成のためのカリキュラム・マネジメント」を創り出した。

職員は、年間計画の作成・実践をおこない、ルーブリック視点で生徒を評価。生徒自身もルーブリックで自己評価を実施。協働活動を行う外部人材もルーブリックの視点で生徒を評価する。これをもとに地域人材に必要な能力が育成できているか、育成すべき新しい能力はないか検討し、ルーブリックを改善する。これをもとに年間計画を立案する、地域と協働した循環型のカリキュラム・マネジメントの構築を図った。

(ウ) 大学や研究機関との連携

教育のデジタル化の進展に伴い、リモートでの講座実施のハードルが、講師側からも受講側からも低くなり、遠隔地の人材であってもゲストティーチャーとして招聘しやすい環境を整備できた。また、生徒1人1台端末と1人1アカウントの実現により、個別の生徒によるメールを利用したコミュニケーションなど、個別最適化された想定以上の連携が実現できた。同時に、情報モラル教育強化の必要性など課題も生まれた。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

1年全学科において、学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」（1単位）、2年全学科において、学校設定科目「上天草プロジェクトⅡ」（1単位）、3年全学科において、学校設定科目「上天草プロジェクトⅢ」（1単位）をそれぞれ総合的な探究の時間の代替として実施している。また、2年普通科においては、学校設定科目「地域起業研究」（1単位）、3年普通科普通コースにおいて、学校設定科目「地域イノベーション研究」をそれぞれ実施している。

③各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

1年生「社会と情報」における「個人の権利」「著作権」「情報発信」とポスター作成の時期を合わせるなど、「上天草プロジェクトⅠ」と他の科目と連動している。

2年生普通科普通クラスにおいては、商業科目「ビジネス基礎」を履修し、「上天草プロジェクトⅡ」と連動した起業家教育に取り組んでいる。

2年生普通科全員が履修する、学校設定科目「地域起業研究」では、理科・英語・家庭・商業の職員を担当者として配置し、商品開発やメディアコンテンツの作成を通じて、課題解決能力の育成を行った。

④地域との協働による探究的な学びを実現するカリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラム開発等専門家は、学校内（生徒、教職員、授業、部活動、学校行事等）と

学校外（地域内外の教育資源、行政、大学、NPO、メディア等）をつなぎ効果的な学習活動を創出する役割を担っている。地域協働学習実施支援員は、カリキュラム開発等専門家と同一の者を指名しており、学校のニーズを地域の資源（人材）と結びつけるだけでなく、地域のニーズを学校の資源（人材）と結びつける双方向のコーディネート機能を担っている。

さらに、市内各所との連携はもちろんのこと、市の地域おこし協力隊員との連携も深め、ネットワークを広げながら、より充実した事業を展開できた。特に上天草市義務教育諸学校配置のコーディネーターと連携することで、本校と市内中学校の探究活動が連動し、相乗効果を発揮した。

カリキュラム開発等専門家と高校で策定したカリキュラムや指導計画に対し、コンソーシアム内の様々な立場からの提言をいただき、事業に反映させ、高校で評価・検証し、コンソーシアムで協議するという役割分担を定める中でPDCAサイクルを確立した。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

研究開発を主として担当する職員2人とカリキュラム開発等専門家（地域協働学習実施支援員を兼任）を、管理職中心の「研究代表者会」、教科主任・学年主任で構成された「研究推進委員会」で手厚くサポートする体制が構築されている。また、各学年職員から選出された上天草プロジェクト担当2名が、学年間の連絡・調整役として研究主任をサポートした。

⑥カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置づけについて

週4日程度勤務し、職員・生徒から「元田先生」と呼ばれるなど、学校の内側で活動する存在として認識されている。各学年の学年会で学校設定科目の連絡調整を行い、授業の実施をサポートしている。また、学校設定科目以外の授業も参観し、カリキュラム全体へのアドバイスや、学校行事のサポートもお願いしている。

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

研究の成果や課題を検証し、適切な評価を行う「研究評価検討委員会」を設置し、定期的に進捗状況の確認および計画の修正を行った。

また、小規模校であるという特性を活かし、管理職が活動に参加することで、各事業の進捗状況や計画について活発な意見交換が行われた。これにより、データとともに「実体験」を伴った研究開発の全体像を学校長が把握し、強いリーダーシップの下、研究開発を力強く前進・加速させることができた。

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

前述の通り、コンソーシアム委員会では、育成する地域人材像を共有し、カリキュラム・マネジメントの一翼を担っている。また、カリキュラム開発に限らず、上天草高校の教育活動全般において、コンソーシアムの果たす役割は非常に大きかった。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

本校の運営指導委員には、指導助言をするだけでなく、それを実現するための手立てを提供していただいている。例えば、堀江委員（上天草市長）からの「SDGsの取組を充実させてはどうか。」と御意見をいただいた結果、市役所から専門家を紹介していただいたり、田中委員（熊本大学准教授）に出前講座の講師を務めていただいたり、足立委員の紹介で大学生による出前授業が実現するなど、手厚い支援をいただいた。

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について

(ア) エキスパート生徒派遣 ～中高の連携による起業家教育～

上天草市では「小中高一貫の起業家教育」に取り組んでおり、市内全ての中学校でビジネスプランの作成を総合的な探究の時間で行っている。

エキスパート生徒派遣事業は、各中学校に本校生徒を派遣し、高校生が日頃の成果を元に中学生にアドバイスをするなど、共同でビジネスプランを研究できるように設定されている。

(イ) 学校・地域間の双方向コーディネート ～コンソーシアムの機能強化～

本事業の取組において、生徒の課題発見・課題解決に地域の力を借りる場面が創り出された。同時に、地域から高校生に力を貸して欲しいと依頼されるケースも急増している。以前は、コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会に依頼が持ち込まれても、「有志が、放課後や休日に」対応する必要があり、うまくマッチングできないケースも存在していた。本事業で「全員が、授業の一環として」対応できることで、依頼を受けやすくなっている。

このような状況から、学校と地域双方のニーズを満たすために、コーディネーター並びにコンソーシアムのコーディネート機能強化に取り組んだ。

⑩成果の普及方法・実績について

(ア) 生徒の成果発表による普及

- i. 本校販売実習「上天草バザール」生徒開発商品の販売。
  - ii. KSH（熊本スーパーハイスクール）生徒研究発表会への参加。
- Ⅲ. 生徒研究成果発表会の開催

(イ) 「地域協働だより」の作成・配布

カリキュラム開発等専門家が、取組の普及を目的とした「地域協働だより」を作成し、関係各所及び上天草市内全戸に配布。

1 1 目標の進捗状況，成果，評価

(1) 全校を挙げての授業改善

全校を挙げて授業改善を推進し、①文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力、の3つの力を重点的に身に付けさせるために次のような取組を行った。

① 「上天草プロジェクト」をはじめとする探究活動の充実

地域課題解決のビジネスプランを3学年共通のゼミ制で実施することで、「探究的」で「協働的」な「体験重視」の活動を、「生徒主体」の研究を「地域の力」で、個別最適化された探究活動ができた。探究の自己評価ルーブリックで4段階中最高点を付けた生徒が、課題設定 46.7%→50.5%、情報収集 36.7%→41.6%、整理分析 33.3%→39.6%、まとめ・表現 31.7%→21.8%となった。（数値比較：ゼミ制導入前の昨年度→ゼミ制導入の今年度）

② 新学習指導要領における地域人材育成を目指した授業改善への取組

地域人材育成ルーブリックを活用した授業改善の取組によって、生徒たちは自らの成長に手応えを感じている。ルーブリックによる自己評価の6月と12月を比較すると、各学年の最高到達目標36項目中33項目で改善している。また、テーマに沿った授業研究の実施割合も昨年度0.07%から4.1%に改善しており、職員の意識向上も覗うことができる。しかし、ルーブリック評価の改善率を年度毎に比較すると、36項目中23項目で改善率が鈍化しており、授業改善の取組をいかに継続させていくか、引き続き検討する必要がある。

る。

### ③大学や研究機関との連携

教育のデジタル化とコロナ禍で、リモートによるコミュニケーションのハードルが低くなっており、遠隔地の講師による講義が増加した。また、リモートであっても、双方向の班別活動がスムーズに実施され、ICT技術の普及だけでなく、講義を実施する側も受講生側もリモートへの対応力向上が見られた。

## (2) 地域と連携した人材育成

### ①地域人材育成のカリキュラム・マネジメントへの持続的な参画

本事業のコンソーシアムは解散するものの、そのノウハウは学校運営協議会に引き継がれる。学校運営協議会では、地域人材育成ループリックの継続的な改善と教育課程の承認を通じて、地域人材育成のカリキュラム・マネジメントへの参画を継続していく仕組みを構築できた。

### ②外部人材による高校生への直接指導

総合的な探究の時間にゼミ制を導入したことで、地域人材育成に地域が直接指導できる体制を整備することができた。

## (3) 地域の就業構造の変化について

本事業開始当初に、従来の「就職とは誰かに雇われるもの」という意識を改め、「就職とは自ら起業して切り拓くもの」という新たな発想を有するなど、未知の状況にあっても適切な対応策・解決方策を導き出せる力を持つ人材育成を掲げた。目標設定において、高校卒業後の地元への定着状況を測る指標を設定した。それぞれ数値は改善したものの、目標の達成はできなかった。この指標に関しては、継続的な取組を要することから、次年度以降の取組にも反映させていく。

<添付資料>目標設定シート

## 1 2 次年度以降の課題及び改善点

### (1) 探究活動のさらなる充実

ゼミ制を導入することで、生徒の興味関心に応じた研究が担保されるようになった反面、その後の活動が細分化し、生徒自身で研究方法を模索しながら進めていくことで、逆に自己評価が下がる傾向がみられた。この改善のために、個別の研究に関わる地域人材を増やすことと、研究の進め方をレクチャーする全体講義の充実を図りたい。

### (2) コーディネート機能の分散

元田氏にコーディネート機能の大半を担っていただいていたが、個人に依存することは持続性に不安を残すことになる。次年度は、熊本県が新しく整備する、クリエイトハイスクールの指定を活用することで、複数の人材にコーディネート機能を担っていただく仕組みを構築する。具体的には、上天草市の地域おこし協力隊とそのOBの組織にコーディネートを依頼し、生徒への指導だけでなく、本校職員との活動に謝礼を支払う仕組みを確立したい。

### (3) 大学生・地元起業家とのつながり強化

高校生が大学とつながる仕組みは確立されたので、より活発な交流を進めるとともに、大学職員とのつながりだけでなく、大学生と高校生の直接交流の仕組みも確立させたい。そのためにも、高校生自ら、外部と個別につながるためのスキルを身につけ、最小限のコーディネートで研究を進めることができるようにする。

(4) SNSや動画サイトを活用した情報発信の模索

生徒の研究成果を発信することで、外部との協働を促進させるとともに、本校の魅力発信強化のため、SNSや動画サイトの活用を検討する。地元メディア等と協議し、安全面も考慮した仕組みを構築する。

**【担当者】**

担当課	教育庁県立学校教育局高校教育課	TEL	096-333-2684
氏名	清本 大介	FAX	096-384-1563
職名	指導主事	e-mail	kiyomoto-d@pref.kumamoto.lg.jp

ふりがな	くまもとけんりつかみあまくさこうとうがっこう	指定期間	
学校名	熊本県立上天草高等学校		

## 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
a	(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 地域に魅力を感じ、愛着を持つ生徒の割合（2018年度は、高校1・2年生のアンケート結果による）						単位：%
	本事業対象生徒：			96.8%	91.6%	91.5%	90%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：		82%	86.9%	86.6%		
目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、上天草の魅力を感じ、愛着を持つ生徒数を増加させる。							
b	(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 本校の取組によって、地域の新たな魅力を再発見した生徒の割合（2018年度は、高校1・2年生のアンケート結果による）						単位：%
	本事業対象生徒：			93.5%	88.1%	88.3%	85%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：		75%	85.4%	83.6%		
目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、上天草の新たな魅力を再発見した生徒数を増加させる。							
c	(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 地域の課題を発見し、解決に向けて意欲的に取り組む生徒の割合（2018年度は、高校1・2年生のアンケート結果による）						単位：%
	本事業対象生徒：			93.5%	90.8%	90.9%	80%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：		66%	66.2%	67.2%		
目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、上天草の課題を発見し、解決に向けて意欲的に取り組む生徒数を増加させる。							
d	(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 将来、地域のために貢献したいと考え、行動する生徒の割合（2018年度は、高校1・2年生のアンケート結果による）						単位：%
	本事業対象生徒：			87.1%	76.5%	84.4%	75%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：		51%	59.7%	62.7%		
目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、将来、上天草のために貢献したいと考え、行動する生徒の割合を増加させる。							
e	(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 他者の話をしっかり聞き、理解できる生徒の割合（2018年度は、高校1・2年生の自己評価による。今後、客観的な評価システムを検討する。）						単位：%
	本事業対象生徒：			85.5%	88.2%	96.8%	90%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：		86%	88.5%	91.0%		
目標設定の考え方：「聞く」プロジェクトに取り組むことで、他者の話をしっかり聞き、理解できる生徒の割合を増加させる。							
f	(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 自らの課題意識をプレゼンテーションし、伝えることができる生徒の割合（2018年度は、高校1・2年生の自己評価による。今後、客観的な評価システムを検討する。）						単位：%
	本事業対象生徒：			69.4%	67.2%	78.5%	70%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：		44%	48.5%	53.7%		
目標設定の考え方：「話す」「表現する」プロジェクトに取り組むことで、自らの課題意識をプレゼンテーションし、伝えることができる生徒の割合を増加させる。							
g	(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 高等学校卒業後、地元で就職する生徒の割合（地元就職に関する指標）						単位：%
	本事業対象生徒：					57.1%	65%(2021年度)
	本事業対象生徒以外：	36%	42%	41.9%	35.3%		
目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、高等学校卒業後、上天草で就職する生徒の割合を増加させる。							

		(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)			単位：％
		高等学校卒業後、地元で就業したいと考えている生徒の割合（就職希望者に関する指標）			
h	本事業対象生徒：		64.9%	60.0%	72.3%
	本事業対象生徒以外：	20%	39%	51.5%	46.3%
目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、将来、上天草で就業したいと考えている生徒の割合を増加させる。					
		(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)			単位：％
		高等学校卒業後、高等教育機関へ進学し、将来地元に戻って就業したいと考える生徒の割合（進学希望者に関する指標）			
i	本事業対象生徒：		37.9%	32.7%	47.6%
	本事業対象生徒以外：		23%	33.8%	34.1%
目標設定の考え方：プロジェクト学習等に取り組むことで、高等学校卒業後、高等教育機関へ進学し、将来地元に戻って就業したいと考える生徒の割合を増加させる。					
		(その他本構想における取組の達成目標)			単位：％
		上天草高校の教育内容を理解している地域住民の割合（2018年度は一部の事業参画地域住民による）			事業参画地域住民のうち
j	本事業対象地域住民：		86.3%	86.6%	84.4%
	本事業対象地域住民以外：		76%		
目標設定の考え方：地域との協働を進めることで、上天草高校の教育内容を理解している地域住民の割合を増加させる。					
		(その他本構想における取組の達成目標)			単位：％
		上天草高校のカリキュラムが魅力的だと考える地域住民の割合（2018年度は一部の事業参画地域住民による）			事業参画地域住民のうち
k	本事業対象地域住民：		87.5%	89.1%	92.9%
	本事業対象地域住民以外：		73%		
目標設定の考え方：地域との協働を進めることで、上天草高校のカリキュラムが魅力的だと考える地域住民の割合を増加させる。					
		(その他本構想における取組の達成目標)			単位：％
		本事業（現在の本校の取組）が地域の変容をもたらすと考える地域住民の割合（2018年度は一部の事業参画地域住民による）			事業参画地域住民のうち
l	本事業対象地域住民：		83.3%	85.7%	87.7%
	本事業対象地域住民以外：		73%		
目標設定の考え方：地域との協働を進めることで、本事業が上天草の変容をもたらすと考える地域住民の割合を増加させる。					

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
a	運営指導委員会の回数					単位：回／年
			2回	2回	2回	2回(2021年度)
目標設定の考え方：年2回の運営指導委員会を実施する。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
b	研究代表者会の回数					単位：回／学期
			2回	2回	1回	2回(2021年度)
目標設定の考え方：学期1回の研究代表者会を実施する。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
c	研究推進委員会の回数					単位：回／月
			0.66回	1回	0.41回	1回(2021年度)
目標設定の考え方：月1回の研究推進委員会を実施する。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
d	コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の回数					単位：回／学期
		1回	1回	2回	0.66回	1回(2021年度)
目標設定の考え方：学期1回の学校運営協議会を実施する。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
e	テーマに沿った研究授業の回数					単位：%／授業回数
			0.3%	0.07%	4.1%	5%(2021年度)
目標設定の考え方：各研究テーマに沿った研究授業を授業回数の5%実施する。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
f	上天草市に関する地域理解講座の回数					単位：回／年
			6回	4回	4回	5回(2021年度)
目標設定の考え方：上天草市に関する地域理解講座を年5回実施する。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
g	高大接続研究の回数					単位：回／年
			0回	0回	1回	1回(2021年度)
目標設定の考え方：高大接続研究を年1回実施する。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
h	プロジェクト学習の回数					単位：回／各学年
			15回	25.5回	19.6回	10回(2021年度)
目標設定の考え方：プロジェクト学習を各学年10回実施する。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
i	研究成果発表会の回数					単位：回／年
			1回	1回	1回	1回(2021年度)
目標設定の考え方：研究成果発表会を年1回実施する。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
j	班毎の調査研究の本数					単位：本／年
			1本	1本	1本	1本(2021年度)
目標設定の考え方：班毎の調査研究を年1本発表する。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
k	班毎の調査研究に対する大学教員等の外部指導者による指導回数（直接指導及び遠隔設備を用いた指導）					単位：回／年
			5回	16回	23回	10回(2021年度)
目標設定の考え方：班毎の調査研究に対する大学教員等の外部指導者による指導を年10回実施する。						

l	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 本校生徒を「エキスパート生徒」として授業に参加させ、起業家教育における課題研究についてアドバイスする 延べ人数						単位：人／年
			31人	40人	6人	20人(2021年度)	
目標設定の考え方：5校×生徒2名×学期1回×2回（2、3学期）							
m	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 高校生ビジネスグランプリへの応募（日本政策金融公庫主催）本数						単位：本／年
		0本	0本	17本	(グランプリの中止)	34本	5本(2021年度)
目標設定の考え方：高校生ビジネスグランプリへの応募（日本政策金融公庫主催）する本数。							
n	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) ICTを利用した隔地者間のコミュニケーション（WEBミーティング、WEBディスカッション）の回数						単位：回／学期
			0回	0回	1回	1回	1回(2021年度)
目標設定の考え方：ICTを利用した隔地者間のコミュニケーション（WEBミーティング、WEBディスカッション）を学期1回実施する。							
o	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 国内大都市及び地方都市におけるマーケティング調査及び販売実習の回数						単位：回／年
		0回	0回	1回	0回	0回	1回(2021年度)
目標設定の考え方：国内大都市及び地方都市におけるマーケティング調査及び販売実習を年1回実施する。							
p	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 全国サミットへの参加回数						単位：回／年
			1回	2回(Web)	1回(Web)	1回(2021年度)	
目標設定の考え方：全国サミットに年1回参加する。							
q	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 本取組専用HP開設および更新回数						単位：回／週
			0.6回	1.29回	0回	1回(2021年度)	
目標設定の考え方：研究開発へ取り組む様子を確実に記録に残す。							
r	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 研究開発実施報告書の作成回数						単位：回／年
			1回	1回	1回	1回(2021年度)	
目標設定の考え方：研究開発実施報告書を年1回作成する。							
s	(その他本構想における取組の具体的指標) 上天草市報の広報特派員の取組による紙面掲載回数						単位：回／年
		5回	5回	5回	5回	5回	5回(2021年度)
目標設定の考え方：上天草市報の広報特派員として、隔月毎に紙面を作成する。							
t	(その他本構想における取組の具体的指標) 高校生による天草CATV（天草地域のケーブルテレビ局）での番組制作本数						単位：本／年
		0本	0本	0本	0本	0本	1本(2021年度)
目標設定の考え方：上天草の魅力を発信する番組を制作する。							
u	(その他本構想における取組の具体的指標) 観光協会が所有するキッチンカーによる、開発した商品の販売回数						単位：回／年
			1回	0回	1回	1回	2回(2021年度)
目標設定の考え方：観光協会が所有するキッチンカーによる、開発した商品の販売を年2回実施する。							
v	(その他本構想における取組の具体的指標) 本事業（現在の本校の取組）が魅力的だと考える保護者の割合（2018年度は一部の保護者による）						単位：%
			81%	86.5%	88.1%	93.6%	85%(2021年度)
目標設定の考え方：本事業が魅力的だと考える保護者の割合を増加させる。							
w	(その他本構想における取組の具体的指標) 本事業（現在の本校の取組）が魅力的だと考える生徒の割合（2018年度は、高校1・2年生のアンケート結果による）						単位：%
			81%	91.4%	93.4%	94.8%	85%(2021年度)
目標設定の考え方：本事業が魅力的だと考える生徒の割合を増加させる。							

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
a	コンソーシアムの活動回数					単位：回／年
			5回	4回	2回	6回(2021年度)
目標設定の考え方：コンソーシアムを年6回実施する。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
b	地域理解講義の講師数					単位：人
			12人	5人	6人	10人(2021年度)
目標設定の考え方：地域各分野の代表2名×約5回						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
c	プロジェクト学習の語り合いへの参加数					単位：人
			36人	0人	0人	80人(2021年度)
目標設定の考え方：8班(想定)×約5名(住民代表、産業界、行政担当部署等)×最低2回						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
d	地域住民等の研究成果発表会への参加数					単位：人
			30人	0人	0人	100人(2021年度)
目標設定の考え方：地域住民等の研究成果発表会への参加を増加させる。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
e	上天草バザールにおける協力者、来場者数					単位：人
	1,860人	1,950人	1,856人	1,092人	1,350人	2,100人(2021年度)
目標設定の考え方：上天草バザールにおける協力者、来場者数を増加させる。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
f	福祉科の実習等に携わる事業所等の数(2020年度はコロナウイルスの影響で実習中止となった事業所も含む数値)					単位：事業所
	17事業所	20事業所	16事業所	16事業所	13事業所	22事業所(2021年度)
目標設定の考え方：福祉科の実習等に携わる事業所等の数を増加させる。						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)		216	205	200	173
本事業対象生徒数			68	127	173
本事業対象外生徒数			137	73	0

## 第2章 研究開発の概要

### 研究開発名

「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成

### 育てたい人材像

- ①上天草をより深く理解し、誇りに思い、愛する人材（知識・技能を基盤として）
- ②新しい上天草創造のために思考・行動・表現し、支える人材  
(思考力・判断力・表現力等)
- ③上天草と自らの夢の実現のため学び続け、夢を追い続ける心豊かな人材  
(学びに向かう力、人間性等)

Society5.0に主体的に対応できる地域人材を育成するため、すべての教科で学びの根幹となる「聞く」「話す」「表現する」力を高めるプロジェクトを行う。これらの力を根底に据え、地域や大学等と協働した学校設定科目である「上天草プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「地域起業研究」「地域イノベーション研究」を軸としたカリキュラム開発を行い、「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成を行う。その際、上天草市内小中高が連携して推進している起業家教育を大きな柱とし、持続的な地域の発展を念頭に、様々な資源を活かし結びつけ、起業する人材が核となり、地域全体の意識の変革をもたらし、就業構造の変化につなげることをも目標としている。課外活動についても地域との協働を強化し、「地域の知の最高学府」である上天草高校の魅力化を推進し、地域への課題意識や貢献意識を持ち、解決に向けて主体的に思考・行動する人材を育成していく。

目的としているのは、人口が減少する中で産業が停滞し、「就職とは誰かに雇われるもの」という意識の強い地域に変革をもたらし、「就職とは自ら起業して切り拓くもの」という新たな発想を有するなど、未知の状況にあっても適切な対応策・解決方策を導き出せる力を持つ人材育成である。地元上天草市と連携・協力し、同市が地方創生推進交付金を活用して進める「地域の宝を活かした地域経済活性化」、「起業家教育を通じた人材育成」、「企業や雇用促進による産業活性化」等の一翼も担い、本校における起業家教育やイノベーション教育等の学校設定科目を通じて、地域への愛着と誇りを高め、地域の新たな未来を切り拓ける人材育成を行いたい。

目標は、幅広い大学や研究機関との連携、情報通信業や農業、林業、水産業等のもつ可能性を探るためにも多角的な視点を養い、全校を挙げて、「学びに向かう力」、「活かして働く知識及び技能」、「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等」を高める授業改善を推進し、次の3つの力を重点的に身に付けさせる。

- ①文章や情報を正確に読み解き、対話する力
- ②科学的に思考・吟味し活用する力
- ③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力

上天草の課題は日本の課題！  
**上天草高校 × 上天草市** **ここで学び、ここで考え**  
**未来の上天草と日本を創ろう！**

高齢化・離島・中山間部・公共交通機関・都市部への流出など、日本の課題を抱える上天草市。上天草高校と上天草市、地元企業、大学等が連携し未来の地域のリーダーを育成する。  
 また、地域課題解決を通じた探究的な学びの成果を「上天草モデル」として全国へ発信する。



**研究開発課題** 「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成

- 育てる人材像**
- ①上天草をより深く理解し、誇りに思い、愛する人材(知識・技能を基盤として)
  - ②新しい上天草創造のために思考・行動・表現し、支える人材(思考力・判断力・表現力等)
  - ③上天草と自らの夢の実現のため学び続け、夢を追い続ける心豊かな人材(学びに向かう力、人間性等)



地域の人たちと語り合おう！  
 ボランティアを企画してみよう！  
 上天草が一つになって動いてみよう！  
 小中学生と一緒にやってみよう！  
 ビジネスプランのプランに応募だ！  
 キッチンカーで調理・販売しよう！  
 海外・国内研修で見識を広げよう！  
 区長会に提案だ！  
 地域を育てるカリキュラム開発等専門家

学校設定科目で 具体的な探究活動	1年次			2年次		3年次	
	普通科	「上天草プロジェクトⅠ」 【探究の土台をつくる】 ・最先端の講義・地域理解 ・プロジェクト学習(模索提言) ・発表による課題の共有 ・フィールドワーク、地域住民との「語り合い」		「上天草プロジェクトⅡ」 「地域起業研究」 【地域資源を活かした起業・ビジネスプラン】		「上天草プロジェクトⅢ」 「地域イノベーション研究」 【地域資源と結びつけた新たな産業創出】	
情報会計科 福祉科			「上天草プロジェクトⅡ」 【学科特性を活かした地域課題解決に向けた探究】		「上天草プロジェクトⅢ」 【3年間の総まとめ】 【地域住民参加の成果発表会】		

支える 国語×地理歴史×公民×数学×理科×保健体育×芸術×外国語×家庭×情報×商業×福祉  
**教科横断的分析力・思考力の育成、「聞く」「話す」「表現する」プロジェクト** 土台

### 第3章 研究開発の詳細

#### Ⅰ 総合的な探究の時間（学校設定科目）

##### （Ⅰ）上天草プロジェクト

総合的な探究の時間の代替として、1年次「上天草プロジェクトⅠ」、2年次「上天草プロジェクトⅡ」、3年次「上天草プロジェクトⅢ」を全学科1単位で実施。

##### ①共通テーマ「地域課題解決のビジネスプラン」

上天草プロジェクトにおける探究活動は、3学年共通で「地域課題解決のビジネスプラン」とした。

ビジネスプランの創造・実践・発表・改善を繰り返しながら磨き上げることで、探究的な学び時時間の「探究的」「協働的」「体験重視」という目標を達成すると共に、学問的な研究と実社会を結ぶ、経済的な裏付けを意識できるようにしている。また、地域課題解決のアイデアが、「外部からの資金援助」頼りの「一時的」な活動で終わるのではなく、持続可能な地域課題解決策として磨き上げることで、ビジネスとして成立させることを理想としている。

##### ②ゼミ制による探究の深化

事業開始当初は、各学年別々の時間・内容で上天草プロジェクトを実施していた。当初の計画は、1年次に地域人材による「地域理解講座」を集中的に行い、上天草市の現状を理解し、課題を発見・分析する力を養うことに重点を置いていた。2年次からテーマ毎の小グループに分かれてプロジェクト学習を本格化させるものであった。しかし、学年毎の一斉講義では、広く・浅い内容にならざるを得ず、個別の興味関心を満足・深化させることができないと感じるようになった。

そこで、上天草プロジェクトを同一時間に行い、学年の垣根を越えた、ゼミ制を導入することにした。

##### （ア）ゼミ制のスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	地域理解講座						BPG応募	ゼミ別探究活動				成果発表
2年	ゼミ別探究活動		成果発表					ゼミ別探究活動				成果発表
3年	ゼミ別探究活動		成果発表	論文作成				起業家教育のまとめ				

※BPG=ビジネスプラン・グランプリ

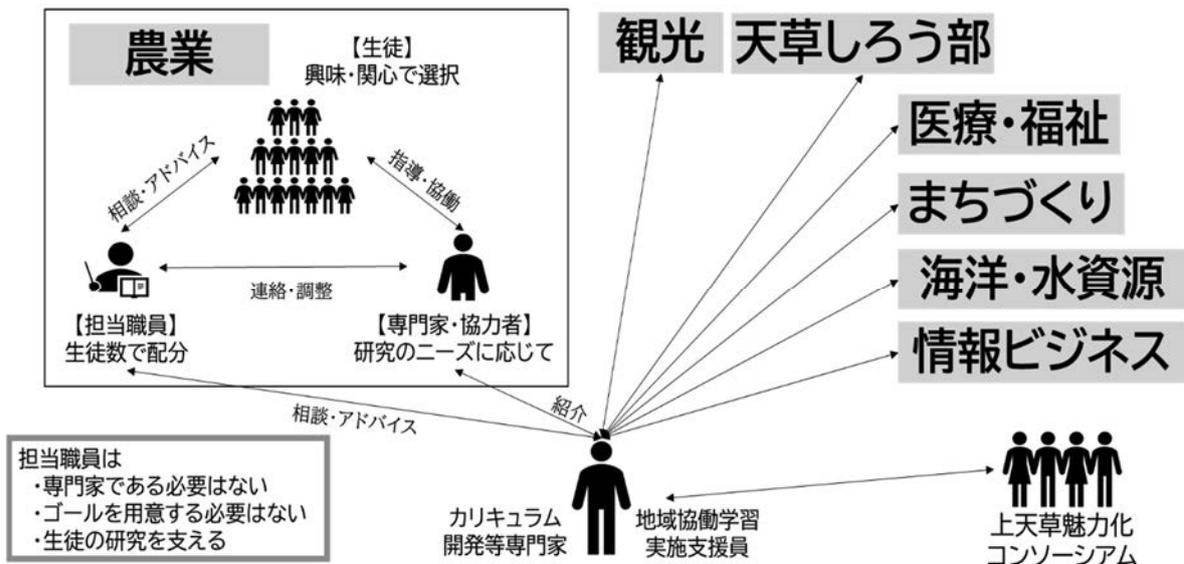
1年生は、4月から地域の専門家を招聘し、一斉講義形式で「地域理解講座」を受講する。これは「まち・ひと・しごと創成総合戦略」「6次産業化とブランディング」「観光」など、上天草の現状と課題を広く知ることが目的である。その後、「先進出前講座」として、「ビジネスプランをつくろう」「持続可能なまちづくり」を受講し、グローバルな視点で、且つ、自分事として課題解決に取り組む姿勢を身につけることを目的としている。

6月に2・3年生の成果発表を聞き、地域課題解決のビジネスプランの概要を把握した上で、ゼミを選択する。このゼミは2年生の6月まで所属する事になるが、ゼミから離れ学年単位で各講座を受講することもある。

成果の発表として、9月にビジネスプラン・グランプリへの応募、2月と翌年6月の成果発表を設定し、それ以外は、各ゼミまたは各研究班での活動になる。短期間でビジネスプラン・グランプリに応募させることは、1年生だけのグループにとっては難しい課題で、応募作品としては未熟なモノが多いと感じる。しかし、その未熟さは「伸びしろ」であり、「系統立てて」「段階的に」学ぶのではなく、「やってみて」そして、「改善していく」ことで研究を深めていくことを期待している。

2年生の6月に成果発表を行った後、新しいゼミへ移行し、1年間じっくりと探究活動に取り組み、3年生の6月の成果発表後は、研究の成果を論文にまとめるというのが主なスケジュールである。

### イ) ゼミ制による探究活動の仕組み



生徒は興味関心に応じて、いくつかのゼミの中からひとつを選択し、研究グループ構成は上限4人というルールだけ設定し、1人でもできるようにすることで、自らの興味・関心に応じた研究を進めることができる。1人での研究で懸念されるのは、机上での調べ学習になり「協働的」「体験重視」が達成できな

い事だが、「地域との協働活動」を必須とすることで対応している。

担当職員は集まった生徒の人数に応じて配置し、今年は概ね生徒8人につき職員1人を配置することができた。担当職員は、生徒の相談に乗り、アドバイスを与えることが主な役割である。生徒・職員が自ら解決できない場合は、コーディネーターに相談する。コーディネーターは、コンソーシアムのコネクションを活用しながら、必要な人材（専門家等）を紹介する。担当職員は、コーディネーターの助言をもとに、外部人材を招聘したり、現場に生徒を送り出したりして、研究の前進をサポートする。担当職員は、ゴールを設定したり、生徒の活動にルールを敷いたりするのではなく、生徒を支え、一緒に楽しみながら研究するといったイメージを持ってもらいたい。

この仕組みの導入は、担当職員に専門性は必要なく、「職員の守備範囲」という枠に囚われない自由な研究が担保されるというのが狙いである。これは、担当職員の負担軽減にもつながると考えている。

課題としては、指導計画もゴールもはっきり教えることができないという活動が不安で、その不安から、積極的に生徒の研究に携わらず、離れたところから眺めているだけの担当者も少なからずいることである。「教える」「ゴールまでのルールを敷く」ということだけが、教師の役割ではないことを啓発することで改善していきたい。

将来的には、各ゼミにその分野に専門性のある外部人材を最初から配置し、専門的な指導やコーディネートを任せたい。あるいは、外部人材と高校生が長期間協働するプロジェクトを、ゼミとして採用したいと考えている。地域の人材が地域の生徒を「直接」「継続的に」指導できる仕組みに磨きをかけていきたい。

### ③地域理解講座ならびに先進出前講座

上天草プロジェクトでは、必要な知識を個別に得ていくことができるが、一斉授業で全員に伝えた方が効率的な内容もある。そのような内容については、1年生の1学期を中心に「地域理解講座」や「先進出前講座」として、カリキュラムの中に取り込んでいる。一斉か個別かの塩梅は難しいが、できるだけ個人やグループでの活動時間を確保するために内容の精選に努めている。

本年度実施した、1年生対象の一斉講座は次の通りである。

(ア) 地域理解講座①「まち・ひと・しごと創生総合戦略について」

講師：上天草市 企画政策課 地方創生係長 鬼塚 正二 氏

(イ) 地域理解講座②「上天草市の6次産業化とブランド化について」

講師：上天草市 産業政策課 課長 藤川 勝利 氏

上天草市 産業政策課ふるさと産業係 係長 山崎 大勝 氏  
上天草市 産業政策課ふるさと産業係 参事 最上 辰徳 氏

(ウ) 地域理解講座③「上天草市の観光について」

講師：上天草市 観光おもてなし課 観光振興係長 寺中 寛人 氏

(エ) 先進出前講座①「ビジネスプランをつくろう！」

講師：日本政策金融公庫 熊本創業支援センター  
上席所長代理 金子 尚弘 氏

(オ) 先進出前講座②「持続可能なまちづくり」

～「まちづくり」と言わないまちづくり～

講師：熊本大学 熊本創生推進機構 准教授 田中 尚人 氏

(カ) 地域理解講座④「地域を輝かせる公務員の仕事」

講師：上天草市 政策顧問 小嶋 一誠 氏

④コロナ禍により開催を断念した取組

初年度（新型コロナウイルス感染拡大以前）に実施したが、以降は開催を断念した取組のうち、特に効果が高いと思われるものがある。今後、安全かつ同等の効果が得られる方法を検討すべき活動は以下の取組である。

(ア) 地域住民との語り合い

生徒自身が地域の課題に気づき、その解決策を探究するため活動の一貫として実施。地域の方たちと語り合う中で、地域の課題や地域の想いを汲み取る事およびその能力の育成を目的とする。

(イ) 他都市での活動（調査、販売実習、研修会参加など）

令和元年度は、大阪での販売実習・調査を実施。また、東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科主催SCHシンポジウムに参加するなど、上天草の外に出て刺激を受け得ることは生徒の成長に繋がった。

## (2) 地域起業研究

2年普通科（普通コース・グローバル文理コース）において1単位で実施。

### ①内容

「地域における起業」をテーマにし、上天草プロジェクトより限定的な課題を設定し、専門家によるレクチャーを受けながら課題解決（作品制作）に取り組むことで、より自由な発想で探究活動を深化させるための知識・技能・態度を養う。

具体的には、「商品の開発と流通」「ウェブページの制作とデザイン」「情報コンテンツの制作」を、専門家による授業および企業との協働活動を実施する。特に商品開発においては、本校の販売実習「上天草バザール」における販売を目標に、商品の企画、協力企業の開拓、試作に取り組んだ。

期日	内容	内容詳細
4月	Webページとデザイン 1	【プレゼンテーションの基礎】
	Webページとデザイン 2	【デザインの基礎】
5月	Webページとデザイン 3	【プレゼンテーション実習】
	Webページとデザイン 4	【プレゼンテーション実習】
6月	Webページとデザイン 5	【プレゼンテーション実習（発表）】
	Webページとデザイン 6	【Webページの制作法方法】
	商品開発と流通 1	【商品開発の手順・テーマ設定の方法】
	商品開発と流通 2	【開発手順と開発テーマの設定】
	商品開発と流通 3	【商品コンセプトと発想法】
7月	商品開発と流通 4	【企画書作成実習】
	商品開発と流通 5	【企画書作成実習】
9月	商品開発と流通 6	【商品開発実習】
	商品開発と流通 7	【商品開発実習】
	商品開発と流通 8	【商品開発実習】
	商品開発と流通 9	【商品開発実習】
10月	商品開発と流通 10	【商品開発実習】
	商品開発と流通 11	【商品開発実習】
11月	商品開発と流通 12	【商品開発実習】
	商品開発と流通 13	【商品開発実習】
	商品開発と流通 14	【商品開発のまとめ】
12月	情報コンテンツの制作 1	【著作権と撮影の基礎】
1月	情報コンテンツの制作 2	【動画編集ソフトの基礎】
	情報コンテンツの制作 3	【動画制作実習】

	先進出前講座	1	【 大学生による SDGs 出前授業 】
2月	情報コンテンツの制作	4	【 動画制作実習 】
	情報コンテンツの制作	5	【 動画制作実習 】
	情報コンテンツの制作	6	【 動画制作実習 】
3月	情報コンテンツの制作	7	【 動画制作実習 】
	情報コンテンツの制作	8	【 動画制作実習（発表） 】

## ②商品開発の成果

今年度の商品開発においては、上天草バザールで販売する商品の企画・仕入をテーマに設定した。生徒が新商品を企画し、自ら協力企業を探す。協力企業と協働して商品を作り、上天草バザールで販売するために仕入を行う活動を行った。

着地点まで大人（職員や企業側）がコーディネートした商品開発ではなく、生徒主導で試行錯誤することがねらいで、上天草バザールでの販売に辿り着かないグループが出てくることも想定していた。実際、11グループ中2グループは、販売にまでこぎ着けることができなかった。

また、大半のグループが自らの企画の曖昧さや弱点を指摘され、大幅な企画変更を余儀なくされた。振り返りの際、「自分の計画の未熟さを感じた。」や「自分の考えを相手に伝えることの難しさを感じた。」「細かなところまで考える企画力が必要。」「ビジネスの現場でも通用するコミュニケーション能力を身につけたい。」「次の機会があれば、もっと良い物を作る！」といった記述が目立ち、実践の場が生徒を成長させると痛感した。

### 【開発商品】

商品名	内容	協力
Gift of the sea	シーグラスのアクセサリー	ねころびカフェ 他
レア大福	フルーツ入り大福	大野菓舗
上天草の思い出	花の手作りキーホルダー	フラワーショップ とがお
天ナツ	芋のドーナツ	ちいさなケーキ屋 m o f - m o f
お芋のパウンドケーキ	芋のパウンドケーキ	手づくりケーキの店 あにす
イモこ	芋のドーナツ	麻こころ茶屋
天草フロランタン	芋を使ったフロランタン	アローム
o i m o	芋のパウンドケーキ	おやつ家 菓音
芋ドラ	さつまいものどら焼き	天草菓匠 春風庵

### (3) 地域イノベーション研究

3年普通科普通コースにおいて1単位で実施。

#### ①内容

日本経済や産業界の現状、国内外のイノベーションの事例等について理解を深めると同時に、分析力や発想力を養う。

校内での講義と関連したレポート・小論文の作成を中心とした科目。講義については校内の教師はもとより、コンソーシアムを通じて選定した、大学の先生方や地元経済界などの外部講師も活用する。

時期	内容	内容詳細
4月	基礎講座 1	【 小論文の書き方1 】
	基礎講座 2	【 小論文の書き方2 】
5月	小論文課題 1	【 廃棄物と社会的責任1 】
	小論文課題 2	【 廃棄物と社会的責任2(提出) 】
6月	先進出前講座 1	【 食糧問題と上天草 】
	小論文課題 3	【 食糧問題と上天草1 】
	小論文課題 4	【 食糧問題と上天草2(提出) 】
7月	基礎講座 3	【 高校生の就職活動 】
	小論文課題 5	【 高校生の就職活動のルールのは是非1 】
	小論文課題 6	【 高校生の就職活動のルールのは是非2 】
9月	基礎講座 4	【 企業の資金調達 】
	先進出前講座 2	【 金融の役割と社会的意義 】
	小論文作成 1	【 私の考えるクラウドファンディング1 】
10月	小論文作成 2	【 私の考えるクラウドファンディング2 】
	小論文作成 3	【 私の考えるクラウドファンディング3 】
	基礎講座 5	【 人口減少と関係人口 】
	先進出前講座 3	【 起業家教育～高校生の皆さんに伝えたい3つのこと～ 】
11月	レポート課題 1	【 自己分析1 】
	レポート課題 2	【 自己分析2 】
12月	レポート課題 3	【 自己分析3(提出) 】
	基礎講座 3	【 上天草を支えるチカラ 】
1月	先進出前講座 4	【 ～映像作りから見た地域愛とは～ 】

#### ②先進出前講座

生徒がグローバルな視点から上天草を見つめることができるよう、様々な講師の

方に講座を担当していただいた。受講後は、講師の先生から講座の内容に関連するレポートまたは小論文を出題していただいた。

(ア)「食糧問題と上天草」

講師：上天草市 地域おこし協力隊 竹崎 歩 氏

(青年海外協力隊としてアフリカのザンビアで活動した経験)

(イ)「金融の役割と社会的意義」

講師：SMBC日興証券株式会社 金融経済調査部

新興国担当エコノミスト 秋本 翔太 氏

(ウ)「起業家教育～高校生の皆さんに伝えたい3つのこと～」

講師：株式会社バイオステラ 代表取締役社長 青柳 拓弥 氏

株式会社バイオステラ 代表取締役 首藤 将克 氏

(エ)「あなたは、地域をもっと好きになる！～映像作りから見た地域愛とは～」

講師：映画監督（京都芸術大学映画学科教授） 山本 起也 氏

かみあまくさフィルムコミッション 小山 真一 氏

## 2 「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトによるカリキュラム・マネジメント

地域人材としてだけでなく、ソサエティ 5.0 に主体的に対応する人材として必要不可欠な、「聞く力」「話す力」「表現する力」について、全教科で取り組む授業改善のプロジェクトである。これは、各授業単体の改善だけでなく、地域人材育成という目標に学校全体で取り組むための仕組みをつくる試みであり、地域人材育成のためのカリキュラム・マネジメントである。

### (1) 「育てたい人材像」の共有（共通言語化）

前述のとおり、3つの「育てたい人材像（＝地域人材像）」を人材育成の目標とした。しかし、この内容は抽象的で、より具体的な資質・能力を示すことで、人材育成の方法も具体化できると考えた。そこで取り組んだのが、地域人材に求められる資質・能力を明確な言葉でまとめたルーブリック表の作成である。

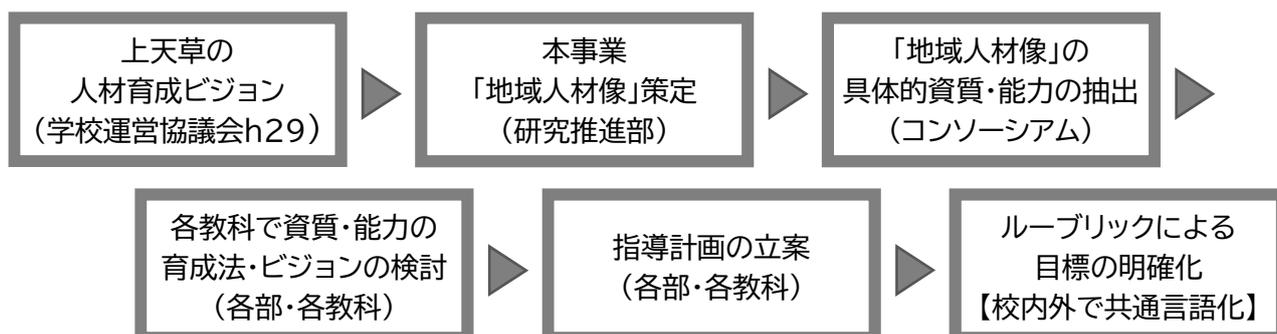
ルーブリック表の必要性を強く感じたのは、学校運営委員会の議論がきっかけであった。本校は他校と比べてどうなのかという話題から、求められた指標は「偏差値」や「進路実績」であった。高校での人材育成を語る際、校外の方たちと共有できる指標（＝共通言語）が偏差値や進路実績だけではいけないと感じた。当時から人材育成のビジョンは共有していたが、具体性に欠けていたことで、明確な人材育成の方法にまで、議論を掘り下げることができていなかった。

### (2) 「やれること」を集めたルーブリック表

事業開始初年度にあたる令和元年度に取り組んだのが、地域人材育成のルーブリックをボトムアップで作成することであった。

まず、コンソーシアムで具体的な「地域人材に求められる能力」を検討した。その後、校内で、それらの能力育成に各部・各教科で何ができるか考え指導計画を立案。各教科の計画のいわば「最小公倍数」を具体的、且つ、シンプルな言葉でルーブリックにまとめた。完成したルーブリックは、校内外で共有され、共通言語として、明確な人材育成の目標として活用されている。

#### (ルーブリック作成までの流れ)



### (3) 継続的な改善～持続可能なカリキュラム・マネジメント～

本校における、人材育成のルーブリックは、単に生徒の成長を測るためのものではなく、地域と学校が協働で育成する「地域人材」の具体的な資質・能力を示している。「上天草を愛し、支え、夢を追い続ける」という地域人材像は、大きなビジョンとして持ち続けたい。しかし、その具体的な能力は、決して普遍的なものではなく、時代や地域のニーズに合わせて変化するものだと考える。したがって、人材育成のルーブリックや人材育成の方法も変化させる必要がある。

次に示すのが、人材育成のルーブリックを活用したカリキュラム・マネジメントの流れである。

#### ①ルーブリックの共通言語化

ルーブリックを校内外で共有し、地域人材育成の明確な目標にする。

#### ②指導計画の立案

各部・各教科でルーブリックを元に指導計画の立案。

#### ③授業の実践

指導計画に沿った授業の実践。上天草プロジェクトで生徒と地域の協働活動。

#### ④評価

職員による、授業実践での手応えや生徒の変容

生徒自身による、ルーブリック表を使った自己評価

外部人材による、上天草プロジェクトで生徒の様子

#### ⑤検証

研究推進委員会で、生徒が発揮できていない資質・能力を議論

コンソーシアムで、生徒に足りない資質・能力の洗い出し

#### ⑥ルーブリックの見直し

コンソーシアムで、検証を踏まえたルーブリックの見直し

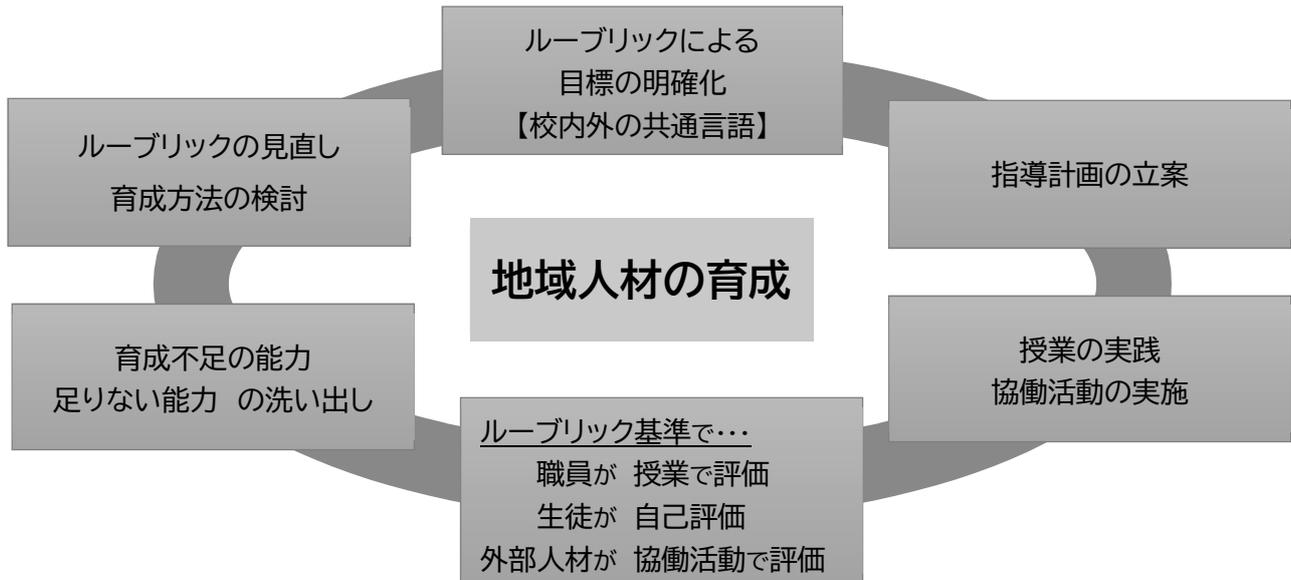
研究推進委員会で、具体的な育成方法の検討

「上天草プロジェクトという実践の場」と「日々の授業というトレーニングの場」、さらに「生徒自身による自己評価」をルーブリックという基準で評価し、「求められる能力が発揮できているか」「足りない資質・能力はないか」をその内容を新たなルーブリックに落とし込む事で、絶え間ないカリキュラム改善を目指している。

「総合的な探究の時間」と「ルーブリックの活用」が両輪となって、地域人材育成のカリキュラム・マネジメントを行うという考えである。

ルーブリックを「地域と協働して」、「時代に合わせて磨き上げる」という仕組みをつくり、学校と地域が「協働して」「継続的に」人材育成に取り組めるようにしたことが、何よりの成果だと考える。

(ルーブリック見直しのサイクル)



### 3 上天草魅力化コンソーシアムとコーディネーター

#### (1) 上天草魅力化コンソーシアム

本校には、平成29年度から学校運営協議会が設置されており、地域と共にある学校づくりを推進してきた。地域の学校に対する思いは強く、「口を出すだけでなく、実行してもらえる組織」として、多くのことに協働して取り組んでいただいていた。しかし、生徒が協働活動に参加する際に、一部の生徒が放課後や休日に、大人のスケジュールや思惑が優先された、計画的ではない場当たりの活動となり、生徒が現場に赴くための交通手段さえままならないという課題を抱えていた。また、学校運営協議会は、学校活動を俯瞰して見ていただくことが多く、人材育成の具体的な方法論には踏み込めていなかった。

これらの課題を解決するために、新たに上天草魅力化コンソーシアムを組織し、地域人材を地域と協働して育成するための仕組みづくりに取り組んだ。これは、全部の生徒が授業の一環として、生徒自身の意思を優先させる活動を、予算的な裏付けを伴って実施することができるようになりたいという、学校運営協議会の想いを形にしたものである。

#### ①構成組織

コンソーシアムを組織するにあたり、本事業に資するという観点だけでなく、取組の継続性を考慮する必要性から、学校運営協議会の委員と兼任する方を多く配置している。同時に、天草地域には大学がないことから、県内で多種多様な学部やネットワークを有している東海大学に参加していただいた。

- ・東海大学熊本キャンパス

- ・上天草市役所（企画政策課・観光おもてなし課・危機管理防災課・学務課）
- ・上天草市教育委員会
- ・上天草市商工会
- ・上天草市社会福祉協議会
- ・天草四郎観光協会
- ・あまくさ農業協同組合
- ・天草漁業協同組合
- ・上天草市区長連合会
- ・天草ケーブルネットワーク(株)
- ・上天草市校長会
- ・熊本県教育委員会
- ・上天草高等学校

※順不同

## ②主な活動

### （ア）地域人材育成の主体としての役割

「地域のチカラで地域人材を育成する」主体として、

- ・地域人材像の策定
- ・学校設定科目における計画立案への参画および生徒を直接指導
- ・ルーブリックを含めたカリキュラム・マネジメントへの参画
- ・教育課程以外の活動への参画
- ・事業の進捗状況の管理および検証

など

### （イ）地域と学校をつなぐ窓口としての役割

- ・地域から学校への協働依頼の窓口
- ・学校から地域への協働依頼の窓口
- ・地域人材の紹介・マッチング

など

コンソーシアムで人材育成法を議論する中で、「やらなければならない状況に生徒を放り込んでみる。単発ではない長期のインターンシップやOJTのような人材育成が効果的。」という提言がなされた。この提言をいち早く実行したのもコンソーシアムの構成組織であった。市役所の様々な事業の中に、高校生の活躍する場面を創出していただき、宮津地区再開発プロジェクトや天草四郎生誕400年記念事業などに生徒が参画した。様々なプロジェクトの、いわば真剣勝負の場に臨むことになった生徒は、必要な知識を貪欲に吸収し、堂々と意見を述べるようになるなどの成長をみせた。

### ③ノウハウの継承

前述の通り、コンソーシアムで得たノウハウは、学校運営協議会で継承する。学校運営協議会では、このノウハウを活かし、学校のカリキュラム・マネジメントに積極的に参画していただきたいと考えている。「地域のチカラで、地域人材を育てる」ために、具体的な提言と協働した実践を期待している。

## (2) コーディネーター

本校では、本事業で設定されている「カリキュラム開発等専門家」と「地域学習実施支援員」を同一人物に担っていただいている。事業開始当時、地域おこし協力隊として上天草市で活動していた、元田 有祈氏である。現在は地域おこし協力隊を卒業され、上天草市で元田農業(株)代表取締役としても活躍されている。

元田氏の活動についてまとめると、次のことが挙げられる。

- ①週4日程度勤務で職員・生徒から「元田先生」と呼ばれる存在
- ②探究活動におけるメンターの役割
- ③外部とのパイプを持ち、様々な人脈で外部人材を発掘

特に①で述べたように、元田氏は生徒から「元田先生」と親しみを込めて呼ばれ、学校の内側で活動していただいた。元田氏の存在は、まさに「かゆいところに手が届く」ものであり、学校の実情と外部の事情を把握した上で、教育活動に参画していただけた。外部の視点を持った人材が、学校の内側で活動することが、どれほど効果的であるか知ることができた。本校の取組がここまで前進できたのは、元田氏の尽力によるものが大きいことに間違いはない。

しかし、元田氏に依存した取組に終わってしまえば、持続可能な取組とは言えない。今後は元田氏の役割を複数の人材に担ってもらえるよう、複数の人材が時間給によって活動できる仕組みを用意している。

## 4 上天草市における小中高一貫の起業家教育

上天草市では、「起業家教育を活用した地域の担い手育成事業」として小中学校で一貫した起業家教育を実施している。この上天草市の起業家教育は、本校の取組と連動しており、中学生も「総合的な探究の時間」でビジネスプランの作成を行っている。上天草市の起業家教育と本校の取組の相乗効果が期待できる。

### (1) 「ビジネスプランの作成」で継続的な研究が可能

教育課程を編成する上で、総合的な探究の時間に割く時間は限られている。しかし、中学校と高校で「ビジネスプランの作成」という共通テーマを設定することにより、生徒の研究を継続・深化させることができる。同時に、上天草市が進める起業家教育の深化にもつながる相乗効果が期待できる。実際、中学校での研究を高校

でも継続しているグループもある。

## (2) 地域人材ごと高校に取り込む

中学校の活動でも、地域人材との協働活動が重視されており、中学生も外部人材との繋がりをたくさん持っている。その中には、各校区のキーパーソンとなる人材や本校との繋がりが無い人材も多くいる。生徒の活動を通じて、それらの人材と繋がることで、高校の活動にも広がりができている。

## (3) 中学・高校の交流による相乗効果

中学生と高校生が共通の課題に取り組んでいるので、エキスパート生徒派遣と称して、高校生を各中学校に派遣し、中学生にアドバイスをする機会を作っている。他人に教えるという行為は、高校生に大きな成長をもたらしている。

また、中学生の開発した商品を、本校の販売実習「上天草バザール」で試験販売する活動も行っている。上天草バザールは、一般の買い物客が多く、中学校の文化祭などとは違った緊張感を持って活動することになる。

# 5 その他

## (1) 移動手段の確保と手続きの簡便化

本校の交通事情は非常に厳しい。さらに、上天草市は、広い範囲に企業や公共施設が点在している。校外の活動に生徒が参加する際のネックとなっていたのが、「いかに、その場所まで辿り着くか。」であったと言える。

本事業では、生徒をフィールドワーク等に送り出すことを重視していることから、生徒が校外で活動するための予算の確保と、手続きの簡便化を進めた。また、外部人材をゲストティーチャーとして、招く手続きも様式を整備することで簡単に行えるようにした。

## (2) 生徒研究と実社会とを繋ぐ商業教育

本校の探究活動をデザインするとき、欠かすことができなかつたのが経済的な視点である。地域課題を解決する際、費用を必要としない解決策は少ない。その費用をボランティアや公的な資金に頼る解決策は、せつかくの地域課題解決が長続きしない。課題解決を持続可能なものにするには、経済的な自立が必要である。また、研究機関等で研究を行うとしても、そこに予算の確保はつきまとうはずである。

探究活動を学問の範囲に収めるのではなく、実社会との接点として経済的な視点を取り入れることが必要だと考えた。この点で、本校の取組に必要不可欠であったのが商業教育である。本校のように、普通科においても商業科目を履修することは、高校という学問の場と実社会を繋ぐ、強力な後押しになると確信した。

## 6 取組の継続

本校では、本事業を「K#Amamax:ケイエイマックス」という愛称で取り組んできた。本事業は3年間の指定を終えるが、取組は継続していく。熊本県教育委員会も、「クリエイトハイスクール」という、新たな指定事業を整備し、予算面でも支援していただく事になっている。

教職員が、人材育成のプログラムを綿密に創り上げ、それに沿って教職員が教え、導くというやり方だけでは、新しい時代に対応する人材を育成できない。学校内だけでなく、外部の視点で、外部のチカラを借りて、新しい時代に対応できる地域人材を育成する必要がある。地域や時代のニーズに対応できる「変わることでできる仕組みづくり」こそが肝要だと言うのが、3年間の研究の結論である。

「変わってはいけないものを守るため、変えるべきものを変え、変わり続ける仕組みの構築」という新たなキャッチフレーズを設定し、「K#Amamax サステイナブル」という愛称で、今後もこの取組を発展させていく。



変わってはいけないものを守るため、  
変えるべきものを変え、  
変わり続ける仕組みの構築

「K#Amamax~sustainable~」として継続

# 第3章 資料集

## I 教育課程表

学 科			普 通 科										
入 学 年 度			平 成 3 1 年 度 入 学										
令和3年度現在学年○印			I		II			(III)			計		
類 型 ( コ ー ス )			普通	特進	普通	特進		普通	特進		普通	特進	
教科	科 目	標準単位				文系	理系		文系	理系		文系	理系
国語	国語総合	4	5	5							5	5	5
	国語表現	3						★2			0, 2		
	現代文B	4			2	2	2	3	3	2	5	5	4
	古典B	4			2	3	2	3	3	3	5	6	5
地理歴史	世界史A	2			2	3	3				2	3	3
	世界史B	4							4	4		0, 4	0, 4
	日本史A	2				3	3	3			3	0, 3	0, 3
	日本史B	4							4	4		0, 4	0, 4
	地理A	2			2	3	3				2	0, 3	0, 3
	地理B	4							4	4		0, 4	0, 4
公民	現代社会	2	2	2							2	2	2
	倫理	2			●2						0, 2		
	政治・経済	2						3	3		3	3	
数学	数学I	3	3	3							3	3	3
	数学II	4			4	4	3	4	3		8	7	3
	数学III	5					1			6			7
	数学A	2	2	2							2	2	2
	数学B	2				2	2		2			4	2
理科	科学と人間生活	2											
	物理基礎	2				2	2	3			3	2	2
	物理	4								5			0, 5
	化学基礎	2	2	3							2	3	3
	化学	4					2			3			5
	生物基礎	2			3	2	2				3	2	2
	生物	4							4	5		4	0, 5
保健体育	体育	7~8	3	3	3	2	2	2	2	2	8	7	7
	保健	2	1	1	1	1	1				2	2	2
芸術	音楽I	2	2	2							0, 2	0, 2	0, 2
	音楽II	2			2						0, 2		
	音楽III	2						2			0, 2		
	美術I	2	2	2							0, 2	0, 2	0, 2
	美術II	2			2						0, 2		
	美術III	2						2			0, 2		
	書道I	2	2	2							0, 2	0, 2	0, 2
	書道II	2			2						0, 2		
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	3	3							3	3	3
	コミュニケーション英語I	3	3	3							3	3	3
	コミュニケーション英語II	4			4	4	4				4	4	4
	コミュニケーション英語III	4						4	5	4	4	5	4
	英語表現I	2			●2	2	1		2	2	0, 2	4	3
家庭情報	家庭基礎	2	2	2							2	2	2
	社会と情報	2	2	2							2	2	2
各学科共通教科計			30	31	25, 27	30	30	27, 29	31	31	82, 84, 86	92	92
商業	ビジネス基礎	2~4			3						3		
	広告と販売促進	2~4						★2			0, 2		
	ビジネス情報	2~6						★2			0, 2		
	プログラミング	2~6			●2						0, 2		
家庭	子どもの発達と保育	2~6			●2						0, 2		
	生活と福祉	2~6						★2			0, 2		
福祉	コミュニケーション技術	2~4			●2						0, 2		
専門教科計					3, 5			0, 2			3, 5, 7		
上天草	*上天草プロジェクトI	1	1	1							1	1	1
	*上天草プロジェクトII	1			1	1	1				1	1	1
	*上天草プロジェクトIII	1						1	1	1	1	1	1
	*地域起業研究	1			1	1	1				1	1	1
	*地域イノベーション研究	1						1			1		
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3
合 計			32	33	33	33	33	32	33	33	97	99	99

\*は学校設定科目

※ 普通クラス2年次の●2、3年次の★2からそれぞれ1科目ずつを選択  
ただし、普通クラス2年次の「英語表現I」、「子どもの発達と保育」と3年次の「生活と福祉」は、普通科および情報会計科の2学科の生徒の選択科目とし、普通クラス2年次の「プログラミング」と3年次の「ビジネス情報」は、普通科および福祉科の2学科の生徒の選択科目とする。

※ 1年次、4月から9月まで「コミュニケーション英語基礎」を、10月から3月まで「コミュニケーション英語I」を履修する。

※ 2学年理系コースの数学IIIの学習は数学IIの範囲の学習を終了した後に行う。

※ 総合的な探究の時間は、学校設定科目「上天草プロジェクトI」、「上天草プロジェクトII」、「上天草プロジェクトIII」で代替する。

学 科			情 報 会 計 科			
入 学 年 度			平 成 3 1 年 度 入 学			
令和3年度現在学年○印			I	II	Ⅲ	計
教科	科 目	標準単位				
国語	国 語 総 合	4	4			4
	国 語 表 現	3			★2	0, 2
	現 代 文 B	4		3	3	6
地理 歴史	世 界 史 A	2		2		2
	日 本 史 A	2			2	2
公民	現 代 社 会	2	2			2
	倫 理	2		●2		0, 2
数学	数 学 I	3	3			3
	数 学 II	4			4	4
	数 学 A	2		3		3
理科	科学と人間生活	2		2		2
	生物基礎	2			2	2
保健 体育	体 育	7~8	3	3	2	8
	保 健	2	1	1		2
芸術	音 楽 I	2	2			0, 2
	美 術 I	2	2			0, 2
	書 道 I	2	2			0, 2
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	3			3
	コミュニケーション英語 I	3		3		3
	コミュニケーション英語 II	4			4	4
	英 語 表 現 I	2		●2		0, 2
家庭	家 庭 基 礎	2	2			2
情報	社 会 と 情 報	2				0
各 学 科 共 通 教 科 計			20	17, 19	17, 19	54, 56, 58
家庭	子どもの発達と保育	2~6		●2		0, 2
	生 活 と 福 祉	2~6			★2	0, 2
商業	ビジネス基礎	2~4	2			2
	課 題 研 究	2~6			4	4
	総 合 実 践	2~4			4	4
	広 告 と 販 売 促 進	2~4			★2	0, 2
	経 済 活 動 と 法	2~4				
	簿 記	2~6	5			5
	財 務 会 計 I	2~4		4		4
	財 務 会 計 II	2~4			4	0, 4
	原 価 計 算	2~4		3		3
	情 報 処 理	2~6	4			4
	ビジネス情報	2~6		5		5
プログラミング	2~6			4	0, 4	
福祉	コミュニケーション技術	2~4		●2		0, 2
専 門 教 科 計			11	12, 14	12, 14	35, 37, 39
上天学	*上天草プロジェクトI	1	1			1
	*上天草プロジェクトII	1		1		1
	*上天草プロジェクトIII	1			1	1
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3
合 計			33	33	33	99

\*は学校設定科目

※ 各学科共通教科「情報」科目「社会と情報」は、専門教科「商業」科目「情報処理」で代替

※ 2年次の●2、3年次の★2からそれぞれ1科目ずつを選択

ただし、2年次の「英語表現I」、「子どもの発達と保育」と3年次の「生活と福祉」は、普通科および情報会計科の2学科の生徒の選択科目とする。

※ 総合的な探究の時間は、学校設定科目「上天草プロジェクトI」、「上天草プロジェクトII」「上天草プロジェクトIII」で代替する。

学 科			福 祉 科						
入 学 年 度			平 成 3 1 年 度 入 学						
令和3年度現在学年○印			I	II		III		計	
類型 (コース)			全	介護福祉	地域福祉	介護福祉	地域福祉	介護福祉	地域福祉
教科	科 目	標準単位							
国語	国 語 総 合	4	3	1	1			4	4
	国 語 表 現	3					★2		0, 2
	現 代 文 B	4		2	2	2	3	4	5
地理 歴史	世 界 史 A	2		2	2			2	2
	日 本 史 A	2				2	2	2	2
公民	現 代 社 会	2	2					2	2
	倫 理	2			●2				0, 2
数学	数 学 I	3	2	2	2			4	4
	数 学 II	4					4		4
	数 学 A	2				2		2	
理科	科 学 と 人 間 生 活	2		2	2			2	2
	生 物 基 礎	2				2	2	2	2
保健 体育	体 育	7~8	3	3	3	2	2	8	8
	保 健	2	1	1	1			2	2
芸術	音 楽 I	2	2					0, 2	0, 2
	美 術 I	2	2					0, 2	0, 2
	書 道 I	2	2					0, 2	0, 2
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	3					3	3
	コミュニケーション英語 I	3		2	2	2	2	4	4
	英 語 表 現 I	2			2		2		4
家庭 情報	家 庭 総 合	4	2	2	2			4	4
	社 会 と 情 報	2						0	0
各 学 科 共 通 教 科 計			18	17	19, 21	12	17, 19	47	54, 56, 58
家庭	子どもの発達と保育	2~6					4		4
	生 活 と 福 祉	2~6			5				5
	フ ー ド デ ザ イン	2~10					4		4
	消 費 生 活	2~4					2		2
商業	広 告 と 販 売 促 進	2~4					★2		0, 2
	ビ ジ ネ ス 情 報	2~6					★2		0, 2
	プ ロ グ ラ ミ ン グ	2~6			●2				0, 2
福祉	社 会 福 祉 基 礎	2~6	2	2				4	2
	介 護 福 祉 基 礎	2~6	2			3		5	2
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術	2~4			●2	2		2	0, 2
	生 活 支 援 技 術	2~12	3	3		4		10	3
	介 護 過 程	2~6		2		2		4	
	介 護 総 合 演 習	2~6	1	1	3	1		3	4
	介 護 実 習	2~16	2 (2)	2 (2)		4 (1)		8 (5)	2 (2)
	こ ころ と か ら だ の 理 解	2~12	3	2		3		8	3
福 祉 情 報 活 用	2~4		2	2		2	2	4	
専 門 教 科 計			13 (2)	14 (2)	10, 12	19 (1)	12, 14	46 (5)	35, 37, 39 (2)
上天学	*上天草プロジェクトI	1	1					1	1
	*上天草プロジェクトII	1		1	1			1	1
	*上天草プロジェクトIII	1				1	1	1	1
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	3	3
合 計			33 (2)	33 (2)	33	33 (1)	33	99 (5)	99 (2)

\*は学校設定科目

※ 各学科共通教科「情報」科目「社会と情報」は、専門教科「福祉」科目「福祉情報活用」代替

※ ( ) 内は、時間外介護実習

※ 地域福祉類型2年次の●2、3年次の★2からそれぞれ1科目ずつを選択

ただし、地域福祉類型2年次の「プログラミング」と3年次の「ビジネス情報」は、普通科および福祉科の2学科の生徒の選択科目とする。

※ 総合的な探究の時間は、学校設定科目「上天草プロジェクトI」、「上天草プロジェクトII」、「上天草プロジェクトIII」で代替する。

令和3年度熊本県立上天草高等学校地域との協働による高等学校教育改革推進事業  
第2回運営指導委員会 会議録

令和4年2月4日(金)

13:00~15:30

於 オンラインミーティングによる開催

出席者

運営指導委員

堀江 隆臣 委員(上天草市長)

荒木 朋洋 委員(東海大学九州キャンパス長)

足立 國功 委員(熊本ソフトウェア(株)代表取締役社長、熊本県産業教育振興会会長)

田中 尚人 委員(熊本大学 熊本創生推進機構 地域連携部門 准教授)

松富 浩之 委員(熊本日日新聞社上天草支局長)

ゲスト

宮川 智慧 氏(株式会社PAL FLAGS 代表取締役)熊本出身の現役大学生。長崎で起業。

坂井 華海 氏(URA 推進室)

県教育委員会

重岡 忠希(熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課長)

清本 大介(熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 高校魅力化推進室 指導主事)

学校関係者

全職員・生徒会長(千原 茉莉乃)

内容

1. 開会

(1) 県教育委員会あいさつ(重岡課長)

(2) 校長あいさつ(田中校長)

2. 事業成果報告および指導・助言

「令和3年度事業報告」を研究主任が説明。

運営指導委員からの指導、助言。以下は要旨。

(田中委員)「変えてはいけないものを守るため、変えるべきものを変え、変わり続ける」というフレーズにすべてが凝縮されている。「これが始まりだ」という気持ちで、これまでの取組を(事業報告として)振り返ることができた。随所にサスティナブルという言葉が散りばめられていた。言葉にはなくても、上天草高校の取組は、SDGsにしっかり向きあっている。上天草高校での講義でも、SDGsは不易と流行で、変えなくていいものは変えなくていい、時代に応じて変えていくものを、無理なく変えていくことが大事であると話した。高校生に不易と流行という言葉は難しいと思ったが、この言葉は咀嚼さ

れていてわかりやすい。これは、「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトという、人と人が交流するときに必要不可欠な3つ要素を、上天草高校の誰もができるようにするという考えの現れである。また、上天草の地域創生を担う立場として、我々が狙っていたのは、上天草高校生が小中学生の憧れの存在となり、上天草高校で学びたいと思った中学生が上天草高校に入学することであった。これをいち早く実現させてくれた。(上天草の子どもたちに)高校までは自宅から通える上天草高校に通ってもらい、大学などに進学し(上天草を離れても)知識や技術を持って上天草に帰ってくる、還流できる人材になってもらいたいと考えていたので、上天草高校の取組が、このように展開したことは嬉しい。

(荒木委員)地方創生を考えるとときに、過疎化の”負のスパイラル”に陥る、一番問題となったのが、教育の問題であった。そこに住もうとする大人たちが、過疎化によって「子供の教育がちゃんとできるのだろうか」と不安を抱くことが、過疎化の負のスパイラルの一部とされている。今回の(上天草高校の)ような取組が、小中高の連携できちんとできるということが見えてくると、「ちゃんと、ここで子どもの教育ができる。」となり、正のスパイラルに転換できる。元々、上天草は環境もよく、資源も豊富なので、教育と地域の特色を結びつけることができれば、地方創生のモデルケースになりえる。

(堀江委員)地域との協働というテーマは幅広く、どこにポイントを絞るかというのが、大変だったと思う。しかし、高校生のカリキュラムで、地域課題解決に取り組むことは非常に意義がある。この取組の期間で、高校生がどのようなことに関心を持ってくれるのか掴むことができた。今後もこの取組を継続していくときに、どのようにフォローするか、一緒にやっていくためのイメージを積み上げることができた。今後は、もう1ステップ上を目指してもらえたら良いと考えている。

(足立委員)上天草の地域性がよく出ていると感じる。元々地域と学校の繋がりが強く、CSの活動が活発であったのを、発展的にプロジェクトに組み込んである。これらの取組は、地域の協力なくしてできない。生徒の研究にも、かなり多くの地域の方たちが協力しているのがわかり、これが天草の特色だと思う。地域と学校の繋がりが、この取組の継続により深まっていくと感じた。また、生徒研究発表で必ず言及されていたのが、SNSなどICTを活用した販売法や広告で、それらを高校生が当たり前のように使おうとする姿に感心した。地域との交流の中でも、中学生との交流が盛んであったことも、上天草の特色と言える。小中高の連携が人材の還流に繋がっている、素晴らしい取組だと

感じている。

(松富委員) この3年間取組で感じたのは、普通科の生徒たちも、単純に普通科で学ぶことだけでなく、商業科目を軸に実践的に学べたことは意義があった。新聞記者の立場で取材する際も、商業高校を取材しているのではと錯覚させられるほど、地域課題解決をとおして、地域人材を育成するため、様々なアプローチで実践的な学びが提供されていた。これは、(教職員や地域の方たちの)準備の賜だと思う。ひとつ安心したのが、文科省の指定が終わっても、クリエイティブハイスクールとして取組を継続できることを嬉しく思う。

(足立委員)

### 3. パネルディスカッション「地域との協働を継続させるために」

進行を田中委員にお願いしてディスカッション。以下はその要旨。

(田中委員) パネルディスカッションでは、3年間の振り返りと、今後を見据えた話をしたい。先生たちが持続可能にならなければ、このカリキュラムは成り立たないので、研究主任にとって「やって良かったこと」と「しんどかったこと」を聞いてみたい。

(研究主任) 生徒が面白い発表をするなど、成長していると感じている時が幸せだった。辛かったのは、コロナ禍で予定していた地域人材との交流等が出来なかったことが残念だった。

(田中委員) 先生方の取り組みは、生徒に伝わると思う。生徒の成長を感じるというのは、生徒を見ている先生の目が肥えてきている証拠である。「やらされている感」があると、何をやっても同じように見えて風景は変わらない。自分自身が「学んだ」「変わった」と思った瞬間に、今まで見えていた景色が全く変わって見えるという風を感じた。

上天草高校の先生方は、入れ替わったとしても、それでも先生同士のネットワークと地域とのネットワークが、繋がっていくことが大事だと考える。

この流れを上天草市の地方創生に波及させたい。当初から地域人材の育成には、上天草市の地域課題の解決がなくてはならないものだと思っていて。6年前から堀江市長と地方創生の第一期を始めたが、当時堀江市長と語り合った夢の状況が目の前にある。当時を振り返って、堀江市長から上天草

高校の生徒がどう見えていたのか、その時の期待など教えてほしい。

(堀江委員) 上天草高校が市内で唯一の高校であることや、入学生徒の減少という問題に直面していたこともあり、上天草高校のあり方や取り組みが、上天草市の地方創生にとっても大事だと、当時話していた。上天草高校生にも、地方創生を含めたいろいろなことに参画して欲しいと考え、そういった機会を作ってきた。

今日の生徒発表で、フナムシをせんべいにするというプランを聞いて、笑ってしまった。しかし、よくよく考えると、タダみたいなものに、付加価値を付けて売るといのは商売の基本である。また、無印良品にも食用の虫が売ってあると聞き、そういう時代が来ているのだと感心した。事業報告の中にあつたように、大人のスケジュールや思惑が優先されるということがありがちで、生徒の自由な発想につながらないかもしれない。生徒がイニシアチブを取るためには、より積極的に地域に出て行かなければならない。

次のステップをやるとしたら、空き家を活用したやり方を考えて欲しい。生徒の方から地域に出かけていく。例えば、空家をサテライト教室のように使う。家庭でも学校でもできないことをサテライト教室でやる。wi-fi環境を整備し、生徒が目的を持って使える場所として活用できないだろうか。そのような場を地域で用意できれば、高校卒業後も継続した研究ができるのではないかと思う。

(田中委員) 6年前は思いもなかったことが、コミュニティスクールを基礎として根付き始めている。それまでは、「地域は地域」「学校は学校」と分かれていたのが、互に関わり合うことで、それぞれが持っていないものを認め、共有していく必要がある。人口減少社会の中で、モチベーションが合う人は一緒にやっていこうというのが、市長の期待するものであった。子供らしい目の付け所や、大人が思いもしない発想の逆転があつたりするのが、この上天草高校の取組が評価されている理由だと思う。

次は、学生として地域に出て活動する経験と、学生と地域のマッチングをビジネスとして行う経験をしている宮川さんに意見を求めたい。

(宮川氏) 長崎で「コミュニティスペース」というものをオープンしている。ここでは、高校時代3年間で普段出会わない、企業の社長さんなどと出会うきっかけや、自分の趣味が夢に繋がることもあるので、そういった夢を見つけるきっかけとなるよう、高校生と大学生と社会人が交わる場所を提供している。コミュニティスペースのギターを、高校生がたまたま手に取り遊んでいたら、気づけばギターが趣味になっていったというような、新しい発見の機会

をつくるのを手助けしたい。私の会社では、人口流出問題に取り組んでいる。なぜ人口流出しているかを考えるより、流入する人を増やすための施策を考えることの方が大事だと考えている。どのようにすれば若者が流入しやすくなるのか、または戻って来るためのきっかけ作りをしたい。例えば高校生の時に、地域の人たち、例えば地元企業の社長さんとの出会いを経験しておけば、進学などで地元を離れたとしても、「あの社長さんどうしてるかな」というのがきっかけで戻って来るとあると思う。そのような、きっかけづくりが、学校の内部からも、外部からの働きかけとしても、必要だと思う。

(田中委員) 堀江市長の提案にあった、空き家の活用について、具体的にコミュニティスペースという提案をしていただいた。今の話で大事だったのが、地域と学校が別々で出会いが少なかったが、ちょっとしたきっかけで出会いが生まれる、予測不能な出会いが生まれる。熊本地震という災害で、「あったはずの未来」と「ありえなかった現実」を突きつけられた。災害が起こると、良くないこともたくさん起こるが、それをいかにポジティブに捉えるかが大切である。人は「いつもと同じ」が居心地がいい。しかし、(エキスパート生徒派遣のように) 中学生に教えに行くという、本当は面倒臭いと思っけても、ポジティブに考え、「やってやろう」と自分を変えようとする意思があると、プラスに働いていく。宮川さんは若者の力を信じ、若者の可能性を伸ばす活動をされていると感じた。

(宮川氏) 「地域の方の協力なくして、地方創生はできない。」と私も思うので、「そっちはそっちでやってよ」ではなく、学校も地域もみんなで団結してやっていくことは必要だと思う。

(田中委員) 次は、浅利先生の「しんどかった」に焦点をあてたい。コロナ禍で様々な事柄が停滞する一方で、逆に進んだのがDXだ。今日の会議のように、オンラインの会議システムやデジタルデバイスに対するビハインドが減ってきた。また、最近の中高生のデジタルネイティブぶりは、目を見張るものがある。このあたりを、産業教育のことや高校生に期待するものを含めて、足立委員に教えてもらいたい。

(足立委員) 私が理事長を務める、NPO 法人 NEXT 熊本の活動の一環で、大学生によるSDGs 出前講座を実施している。熊本商業高校などでは対面で実施したが、まん延防止適用の関係で、上天草高校はリモートでの実施となった。リモートでの授業に不安を感じていたが、対面での授業と全く変わらなかった。大学生側も高校側も、入念な準備や工夫をされた結果かもしれないが、「デジ

タルネイティブ」や「ネットシチズン」のという言葉が現実になっていると実感した。事業報告では、中学生との交流を話されていたが、それ以外のところも、ネットを活用して繋がってほしい。

また、別の話になるが、生徒の研究発表を見て、上天草高校の生徒は、地元のことをよく知っていると思った。産物や観光など、地元の資源を活用するだけでなく、ネットを使って宣伝・販売していくところまで考えている。デジタルシチズンの世界では、地方とか都会とか関係なく、やる気が大事だと思う。幸い、上天草は住民の方が協力的で、地域力があるといえる。地域力があることで、高校生たちが地域の人たちと交わり、人間力を身につけていくことに繋がっているので、この取組は今後も発展していくと期待している。

(田中委員) 大人の意見を聞いてきたので、次は、生徒会長に意見を聞いてみたい。できれば、生徒会長としてではなく、2年間K#Alphaに取り組みしてきた、一生徒として聞きたい。各学年でどのようなことを考えていたか教えてください。

(千原生徒会長) 中学生の時、友達がたくさんいる上天草高校に行こうと決めた。入学すると上天草プロジェクトという授業があり、イチから自分たちでビジネスプランをつくるので難しいと思っていた。

(田中委員) 「楽しいことはあった？」

(千原生徒会長) 楽しいことは・・・なくはないが、しんどかった。

2年生になると、一度経験したので、もっと深いところまで考えることができるようになった。

(田中委員) 千原生徒会長の話を聞いて、K#Alphaが進化しているという手応えを感じた。この取組の導入当初は、1年生だけが様々な取組をやっていたので、当時の2年生が「いいなあ。私達はやってないのに」と話していたのを思い出した。しかし、その2年生も偉かったのが、「私達は先輩だから、自分たちで考えて、いろんなことにチャレンジする。」と話していた。上天草高校にはそういったチャレンジをする土壌が元々あったのだと思う。専門学科が併設していることで、普通高校にない雰囲気が醸成されていたのだと思う。商業教育の大切さを事業報告で話されたが、ビジネスを学ぶということに地域という要素を掛け合わせることで、専門学科でも普通科でもシナジー効果が生まれていると感じる。

本当に地域を知るには、メディアの役割が大きいと思いますが、メディアとして、高校生を取材する中で気づいた、高校生の変化などがあれば教えてほしい。

(松富委員) 着任時はこの取組の2年目だったので、取材する生徒の受け答えがしっかりしていたり、物事の考え方が醸成されつつあるという印象を受けた。取材する側としては話を引き出しやすかった。それが一部の生徒に限ったことでなく、どの生徒も概ね、こちらが投げかけた質問に、自分の考えを率直に話してくれた。3年目に入った今年は、それが洗練されてきたという感想を持っている。

(田中委員) 生徒会長などの一部の生徒だけでなく、みんながそのようなことができるというのが上天草高校の特徴だと思う。取材のプロから見ても、そのように映るのはとても嬉しい。

松富さんが、ニュースを引き出すときに、大切にしていることは何ですか。

(松富委員) 取材対象である生徒本人が、言いたいことを言ってくれるように、気をつけている。こちらがシナリオを想定して、答えを引き出すのではなく、高校生ならではの考えや答えを聞き出したいと思っている。

(田中委員) 荒木先生は、上天草高校の取組について、どのように考えられていますか。

(荒木委員) 大学は教育と研究が大きな仕事だが、大学の重要な使命のひとつが地域貢献である。大学も地域の資産のひとつなので、地域は大学をもっと活用してほしい。東海大学では、地域と連携した活動で、教育をやっけいこうと考えている。ソサエティ5.0社会でどのような人材が必要かという、今までのように文系・理系に分かれて専門教育を受け、片方だけできるが、もう片方はさっぱりさっぱりわからないでは困る。ソサエティ5.0社会では、文系の分野も、理系の分野も、両方理解できていないといけない。その点で言えば、上天草高校の生徒の研究には、必ず経営のことや商業のことが入っていたことが非常に素晴らしい。今後の社会では、偏った教育ではなく、幅広い分野のことを身につけた人材の育成が、大学の重要な使命となっている。東海大学九州キャンパスは、2022年度から文理融合学部をつくる。その中に地域社会学科があるが、地域社会で活躍できる人材育成が目的である。そのような社会の流れの中で、若者が地域の中で活動することのメリットは非常にたくさんある。現代社会は核家族化が進み、若者と年長者が分断されている。大学生であっても、地域の中に入って、大人と接する機会は、都会ほど失わ

れている。逆にそれができるのは地方である。地方創生において、流出者を減らすことより、流入者を増やすというのは正解で、地方に魅力があれば流入してくる。熊本県でいえば、対前年の人口増加率トップは嘉島町で、菊陽町、合志市、大津町、御船町と続いている。流出ナンバー1は球磨村、次が苓北町になってくる。熊本市周辺の増加と、熊本市から遠い場所の減少が見えてくる。なぜ熊本市のサテライトシティが増えるかという「便利」だからである。ところが、この「便利」がコロナ禍で様変わりしてくると考えられるので、サテライトシティへの人口の集中は、過渡期における現象だと考えられる。

大学の教育は、若者が地域であっても活躍できるような手助けをする必要がある。大学の教育で、知識を授けるという活動は、コロナ禍であってもリモート教育でできてしまう。しかし、上天草高校がやってきた、いわゆるコンピテンシーは、現場で活動しないと身につかない力なので、大学は地域との接点を持ちながら、学生をその場に入らせていく教育が重要となってくる。繰り返しになるが、高校生が地域で、お年寄りでもよいので、接するということはものすごくメリットがある。最近「聞き書き」という活動が注目を集めている。これは、若い人がお年寄りや素晴らしい能力を持った人の話を聞き、文字興しをする活動である。この活動に限らず、若い世代が地域の大人と接点を持つことは、地域で活躍する人材を育成する有効な手段といえる。東海大学九州キャンパスは、地域貢献の核となるようなキャンパスを目指しているので、もっともっと大学を活用してもらいたいと思っている。

(田中委員) これからの社会は、文理融合のように異分野を掛け合わせることが求められている。元々「イノベーション」という言葉は、掛け合わせするという意味を持っている。今回の上天草高校の取組がうまくいったのは、教育と地方創生のかげ算が成立したからだと思う。これは、教育側の努力だけではうまくいかないので、自治体が、どれだけ本気を出しているかが大事になってくる。熊本県はどう考えているか清本指導主事に聞きたい。

(清本指導主事) 県教育委員会の高校魅力化推進室は、高校の魅力化をどう図っていくかを重点的におこなっている部署である。上天草市の強力なバックアップがあってこそ、上天草高校の取組だということを重々感じている。上天草市のように、本気でバックアップ体制を整えているところの高校ほど、取組が盛り上がっていると常々感じている。今後は、益々学校と自治体がタッグを組んで取組をすることが大事になってくると思う。

(田中委員) 学校だけでできないことを、いかに地域に任せるかが重要で、学校と地域

が互いに可能性を交換することが大事である。これはひとつの挑戦で、教育には生徒の前で失敗できないという風土があるので、特に教育は挑戦しづらい。そこの殻をいかに破るかが大切である。

ここで、一番の苦勞人である元田さんに聞きたいのだが、3年間で狙っていたことを話してほしい。

(元田C D) 地域おこしを踏まえた上で、高校でのコーディネートの仕事を引き受けた。上天草高校の生徒が将来幸せになるための、どのような生きる力を身につけるべきか考えて活動してきた。まず、3年間この取組を経験した生徒たちは、上天草の大人たちとたくさん触れ合ったので、大人慣れたと言える。自分が思っていることを、しっかり伝えることができる生徒が増えたので、面接試験等でも物怖じすることなく話すことができたと言っている。地域の大人と小さい頃に絡んだ思い出のある子の方が、地元に戻ってくるというデータもあると言っている。将来上天草のリーダーになるべく戻ってきてほしいと思います。また、普通科や福祉科の生徒も、商業教育として、ビジネスに触れる機会を得たので、ビジネスの考え方が、人生におけるセーフティネットの一つになったのではないかと思う。

(田中委員) 元田さんは、外部人材として学校の中に入って活躍されている。これは、先生方との関係を、うまくされていることが、ポイントだと思っている。「学校を変えてやろう。」という外部人材は、野心を持ってプロジェクトに臨む場合が多いが、学校を変えるために最も大切なのは先生である。「外から来た人は、その間だけやればいいが、私達職員はずっとやらなければいけないだから・・・」や、地域の人は生徒に飽きただけあげていい顔すればいいんだから・・・と、「私達は私達」になるとうまく行かない。先生たちが本当に変わろうと思わなければ、K#Amaxはサステイナブルになれない。でも、それがうまくいっている、上天草高校で勤務したいと考える教師は増えるのではないかと考えている。

そのあたりを、若い頃に前身の大矢野高校に勤務され、校長として上天草に戻ってこられた田中校長先生に、職場としての上天草高校や地域からの期待について聞きたい。

(田中校長) 30年近く前に勤務していた頃と今とでは、地域の方や上天草市の行政の方が持っている、この地域の未来に関する危機感が違うと感じる。今は、この地域の将来が、本校に掛かっているという切実な期待を持って、周囲の方々が本校を支援してもらっていると感じる。本校としては、学校外から様々な方が日々来られるので、風通しがよくなっているという風によらえ

ている。

(田中委員) まちづくりをやっている、本当に切羽詰まった人が一番頑張る。他人事になっている人は、口だけになりがちで、何もやらないことが多いと感じる。本当に困っている人の課題解決をすることが、まちづくりにとって、すごく大事だと思っている。切羽詰まっていると考えるからこそ、地域の未来と学校の未来を重ね合わせ、少ない人的資源で、一期一会を大事にして活動すべきである。上天草市と上天草高校の取組は、教育の場であると同時に、地方創生の場であるといえる。

生徒研究発表にも参加した坂井氏に、この取組や天草地域について聞きたい。

(坂井氏) 私は小学校4～6年生の間、牛深に住んでいた。熊本市から引っ越した時は、不便で方言も少し違うので不安だった。3年間暮らして牛深を離れたが、祭りに参加したり、(地域で)一緒に何かする、隣の人の様子がわかるといったことが、尊かったというのが、今になってわかる。十数年ぶりに訪れたとき、小学校がなくなっている、人が減っている、海で遊んでいる人がいないという風景を目の当たりにし、寂しい気持ちになった。「よかったと思えるこの場所を、続けていきたい。」と頑張っている人たちもいる。そのような人たちの思いが、行動や、実りに繋がるものになっていったらいいと思っている。

午前中の生徒発表会に参加させていただき、高校生がここまで自分で考え、調べることができたことに感心している。高校生は、学習の進め方・学び方を大学から提供してもらおう。その知識を元に、高校生が中学生にアドバイスする。このように知の循環や知を獲得していく方法が繋がっていくと、上天草に戻って来たいという動機であったり、戻ってきたときの武器を、多くの人が持てるようになっていった。

(田中委員) 宮川さんも、午前中の発表をご覧になっていた、ここまでの議論を含め、上天草高校の取組をどう思うか聞きたい。

(宮川氏) 先日、益城町のビジネスプランコンテストに出していただき、そこで熊本の課題などをお聞きした。大学生と高校生の交わりで、新しいことが生まれるのではないかと考えている。それがきっかけで事業を起こすことも考えられる。大学の先生である荒木委員や田中委員だけでなく、学生も一緒に高校に入って行くことで、より多様なアイデアが出るようになるのではないかと、自分自身も話に参加したいと思った。

(田中委員) 先生はいらないんじゃないかと思うほど、大学生は活躍する。昔、河浦の崎津地区に学生を連れて入っていた。大学生が入ると地元の人達は喜ばれるが、大学生よりも地元の人たちが元気になったのは、閉校が決まっていた河浦高校の生徒がまちづくりに参加してくれたことだった。彼らがやっていたことを中学生が引き継いで、ボランティアガイドをやっている。他所から来てどこかに行ってしまう大学生よりも、地元の中高生がリターン人材となる可能性が高い。そういった意味でも、上天草高校生が地元の活動に参加する意義は大きい。宮川さんも長崎でたくさんの経験を積んでもらって、熊本に帰ってきてもらえたらと思う。

(宮川氏) 地方を出ることは「悪」ではない。離れてからこそ学ぶことも多い。私自身も、教育学部で先生になるつもりだったのに、まさか起業することになるとは考えていなかった。熊本から長崎に来て、熊本の良さも長崎の良さも学べ、長崎も応援しつつ、熊本に戻った時に挑戦できる環境があれば、戻って来やすいと思う。

(田中委員) では、先生代表で森川研究副主任にも話を聞きたい。

(研究副主任) 3年間この事業に関わり、生徒とともに成長できた。この事業を継続・発展させるために、守るべきものを大切にしながら、変えるべきものを変えていきたい。3年間副主任を務めたので、来年からは自分が主任として、この取組を飛躍させたい。

(田中委員) 私は、サステナブルとは変わり続けることだと言っている。全く変わらないということは、全く不自然なことである。時代が変わるごとに変えていく、その時に不易と流行を見極める必要がある。変えなくていいことである真髓のようなものは変えないが、流行のところは、時代に合わせて変えていくことが、本当の意味でのサステナブルだと思う。

K#Amaxの新しいキャッチフレーズに「サステナブル」が入っている。これは、上天草高校が取組を進める中で紡ぎ出した言葉だと思う。現在、上天草高校に勤務されている先生方が、他の学校に転勤し、その地域にあったK#Amaxのサステナブル版を実施していくことを期待している。

(元田C D) 初年度は、地域とどのように繋がっていくか手探りだった。さらに、研究主任たちが苦勞したのが、上天草高校の職員に事業の内容を伝えることだったと思う。学校の先生の生徒に対する責任感がかなり強い。探究というのは

正解がない活動だが、先生方は入念な準備で正解を用意しようとする。しかし、準備をしすぎてレールを敷いてしまうと、自由な発想が生まれにくくなるので、伴走するようにしてくださいと伝えた。それを「我々が手を抜いている」と捉えた方もいたが、3年間の取組で理解していただけたと思う。このように、上天草高校の先生方が、探究に対する理解を深めたことが、上天草高校の取組がサステナブルに繋がっていく第一歩になったと思う。

また、上天草高校ではこの取組が当たり前になったので、なぜこれに取り組んでいるのか、わからない生徒がでている。次年度は、もう一度「なぜ取り組んでいるのか」しっかりと説明したいと思っている。

(田中委員) 「今ココ！」を学んでいる人に示すことは、非常に重要なことである。無我夢中で進んでいると、今の自分の立ち位置を見失ってしまう。「あなたは今ココにいますよ。」とか、「ココに来るまでの過程を見直そう。どんなことをしたからココにいるの?」を考えさせる。要は振り返りの時間であり、内省の時間でもある。今自分が立っているところを確認することが大事である。

また、(上天草高校の職員について) K#Amaxを3年間やって、先生方にはそれぞれ学びがあったはずである。中には「もっと良い方法がある。」と思っている、反対だと言っている先生がいることも大事なことで、無関心が一番よくない。K#Amaxに反対の先生がいるのであれば、それはそれで価値があると思う。愛の反対は無関心という言葉があるように、何も考えずお仕事的にやっていたら、つまらない3年になっていたはずである。上天草高校にいるのなら、やらないと損だとか、せつかくだからやってみようという、チャレンジの魂が、この結果に繋がっていると思う。

(元田C D) 我々担当者にとって、この事業の「今ココ！」を示していただいたのが、運営指導委員会とコンソーシアムであった。特に、運営指導委員の皆様は、各分野の専門家であり、様々な角度からいただいたご意見のひとつひとつが、自分の立っている座標を明確に示していただいたと思っている。先程も申しましたが、ここから出発だと思っている。この出発点を定めていただいた運営指導員の皆様には、今後ご助言頂ますようお願いいたします。

#### 4. 閉会

- (1) 校長あいさつ (田中校長)
- (2) 県教育委員会謝辞 (重岡課長)

令和3年度上天草魅力化コンソーシアム第1回委員会議事録

令和3年(2021年)7月2日(金)

14:00~16:00

於 上天草高校学習室2

出席者

コンソーシアム委員

- ①小田 心一 東海大学 フェニックスカレッジ熊本オフィス マネージャー  
②花房 博 上天草市 企画政策部 部長  
随行：上天草市 企画政策部 企画政策課 宮崎 氏  
③前方 正広 上天草市 経済振興部 観光おもてなし課 課長  
④松尾 伸之 上天草市 総務企画部 危機管理情報課 課長  
⑤山下 勝一 上天草市教育委員会 教育委員  
⑥赤瀬 耕作 上天草市教育委員会 学務課 課長  
⑦志村 俊和 上天草市商工会 総務課長  
⑧杉本 健一 天草四郎観光協会 事務局長  
⑨水野 龍幸 あまくさ農業協同組合 大矢野総括支所 支所長  
⑩芥川 琢哉 天草ケーブルネットワーク メディア事業部 部長  
⑪福嶋 光浩 上天草市立大矢野中学校 校長  
⑫重岡 忠希 熊本県教育委員会 高校教育課 課長  
⑬田中 篤 上天草高校 校長  
(欠席)  
⑭須中 一久 上天草市社会福祉協議会 地域福祉課長補佐  
⑮北岡 秀敏 天草漁業協同組合 上天草総合支所 総合支所長  
⑯福田 津奈男 上天草市区長連合会 会長  
⑰元田 有祈 上天草高校 カリキュラム開発等専門家  
以上17人中14人出席

高校教育課

- 局 千秋 高校魅力化推進室 主幹  
清本 大介 高校魅力化推進室 指導主事

上天草高校関係者

豊田教頭、野崎事務長、浅利研究主任

内容

1. 開会

- (1) 熊本県教育委員会挨拶(重岡課長)  
(2) 委嘱状交付  
(3) 出席者自己紹介  
(4) 会長選出  
重岡課長から、上天草高校田中校長の推薦 → 承認  
(5) 会長挨拶(田中校長)

2. 協議

- (1) 令和2年度事業報告  
(2) 設定した目標の進捗状況  
(3) 令和3年度事業計画  
まとめて研究主任浅利が概要を説明。

質疑および協議

- (赤瀬委員)(目標設定にある)地元への就職65%に対して、ハローワークとの連携などの取り組みは行われているか。  
(田中校長)ハローワークとの特別な連携はしていない。  
(研究主任)例えば、上天草市役所に務める本校卒業生による説明会など、個別に取り組んでいる例もある。  
(赤瀬委員)上天草市では小中学校でも「起業家教育の推進」「ICTを活用したコミュニケーションの充実」に取り組んでいるが、高校の整備状況はいかがか。  
(田中校長)1・2年生全員にタブレット端末が準備できており、全普通教室に電子黒板の整備、Wi-Fiの整備も完了している。  
(赤瀬委員)上天草市の起業家教育の取り組みも3年目を迎え、総務省の指定も終了する。今までコーディネーターに依存してきた、地域や高校と連携を自走させるために、中高の連携を深めていきたいと考えている。特に各小中学校の担当者だけでなく、全職員に起業家教育委のノウハウを伝え、高校の先生や地域人材と直接コミュニケーションできるような連携を進めていきたい。  
また、小中学校のコーディネーター機能を各学校のコミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の組織を活用したい。このことは、高校と同じ方向性なので、情報交換していきたい。

(小田委員) 大学も高校生の研究に協力を惜しまない。リモートでのコミュニケーションも可能なので遠慮なく知らせてほしい。大学には、本当に多種多様な人材が学生も含めているので、生徒の研究に合せた人材を紹介できると思う。

(松尾委員) 地域人材の名簿(データベース)をつくるなどすれば、学校とのマッチングがうまくいくのではないか。逆に生徒の研究内容をまとめることができれば、協力できる内容を見つけやすい。

### 3. 開会

(1) 会長謝辞(田中校長)

## 令和3年度上天草魅力化コンソーシアム第2回委員会議事録 (令和3年度上天草高等学校運営協議会との合同開催)

令和4年(2022年)2月17日(木)

10:00~12:00

オンラインミーティングでの開催

### 出席者

#### コンソーシアム委員

- ②花房 博 ※ 上天草市 企画政策部 部長  
代理: 上天草市 企画政策部 企画政策課 宮崎 氏
  - ③前方 正広※ 上天草市 経済振興部 観光おもてなし課 課長
  - ④松尾 伸之 上天草市 総務企画部 危機管理情報課 課長
  - ⑤山下 勝一※ 上天草市教育委員会 教育委員
  - ⑥赤瀬 耕作※ 上天草市教育委員会 学務課 課長
  - ⑧須中 一久※ 天草市社会福祉協議会 地域福祉課長補佐
  - ⑬芥川 琢哉 天草ケーブルネットワーク メディア事業部 部長
  - ⑭福嶋 光浩※ 上天草市立大矢野中学校 校長
  - ⑮重岡 忠希 熊本県教育委員会 高校教育課 課長  
代理: 熊本県教育委員会 高校魅力化推進室 指導主事 清本 大介 氏
  - ⑯元田 有祈 上天草高校 カリキュラム開発等専門家
  - ⑰田中 篤 ※ 上天草高校 校長
- ※印は学校運営協議会委員との兼任

(欠席)

- ①小田 心一 東海大学 フェニックスレッズ 熊本オフィスマネージャー
- ⑦志村 俊和 上天草市商工会 総務課長
- ⑨杉本 健一 天草四郎観光協会 事務局長
- ⑩水野 龍幸 あまくさ農業協同組合 大矢野総括支所 支所長
- ⑪北岡 秀敏 天草漁業協同組合 上天草総合支所 総合支所長
- ⑫福田 津奈男 上天草市区長連合会 会長

以上17人中11人出席

#### 学校運営協議会委員

- 北岡 敦広 (株)地域のチカラ 代表取締役(上天草市コーディネーター)
- 切通 努 上天草市立松島中学校 校長
- 中野 聖規 上天草市立登立小学校 校長

#### 上天草高校関係者

豊田教頭、野崎事務長、浅利研究主任、森川研究副主任

## 内 容

### 1. 開会

- (1) 熊本県教育委員会挨拶（清本指導主事）
- (2) 校長挨拶（田中校長）

### 2. 協議

- (1) 令和3年度K#Amox事業報告  
研究主任による報告。質疑なし。
- (2) 令和3年度コミュニティ・スクール事業報告  
研究主任による報告。質疑なし。
- (3) 生徒の活躍ならびに学校評価の結果説明  
豊田教頭による説明。質疑なし。
- (4) 意見交換および評価

(元田CD) 今年度はK#Amox最終年。最後までコロナの影響を受けてしまった。そんな中でも、ギガスクールが進展し、生徒1人1台端末が実現した。先生方も上手に活用されていたが、生徒がデジタルネイティブぶりを発揮し、抵抗なく様々な場面で活用していた。初年度の想定よりDXの面では大幅な前進が見られたと思っている。

また、ZOOMの利用の時間制限がなくなったので、東京の起業家や証券会社の方々に、専門的な講座を実施していただく事ができた。今後は、ICTを利用した遠隔地とのコミュニケーションと、現場でしか味わうことのできないリアルな体験を、うまいバランスで生徒に提供できたらと思っている。

(清本指導主事) これまでの取組を継続していくとのことだが、来年度以降、これまでは違う取組を考えているか。

(研究主任) 地域と協働して人材育成する仕組みの基礎はできたと思っているので、今までの取組を発展させることを念頭に置いている。例えば、商品開発など生徒がチャレンジする機会を増やしたり、高校生と協働したい企業・団体にゼミの運営を任せてみたいと考えている。また、K#Amoxで多くのゲストティーチャーを招聘したが、特別な取組としてではなく、普段の授業においてゲストティーチャーを活用できるようにもしたいと考えている。

(元田CD) 来年度以降も各分野の専門家に協力を仰ぎたい。高校の授業に参加することを数居が高いと感じていらっしゃる方も多いと思うが、実際に生徒と接するとそうでもないもので、もっともっと多くの方に高校と繋がって

もらいたい。

(芥川委員) たくさんの魅力的な商品を開発しているが、その後、上天草バザール以外で販売するなど進展はあったか。

(元田CD) おやつ家華音と共同開発した商品は、上天草バザールでの売れ行きを見て、来年のイモの時期に販売を検討するとのことであった。

(山下委員) コミュニティ・スクールの取組について伺いたい。昨年度の学校運営協議会で提案した、認知症サポーター講座の1年生全員受講が実現しているが、生徒の感想や行動の変容を知りたい。

また、例年実施している「上天草ちいきKAIGO・REBORN・PROJECT」主催の高校生と市内福祉施設合同研修会について、今後も継続しながら福祉科の魅力発信を進めてほしい。

今年度の新しい取組で、松島中学校への高校職員による出前講座がある。平成29年に山口県の周防大島高校に先進校視察に行ったときに感銘を受けた取組に似ている。この取組も継続してほしい。

(田中校長) 認知症サポーター講座受講後の感想文を読んだが、一般的に受講前にもっていた認知症に対するイメージを払拭できたようであった。「自分には関われない」「怖い」ものではないとわかったようである。また、「困っている高齢の方がいたら声をかけたい」など前向きな感想が目立った。福祉科の生徒に限らず重要な視点を学ぶことができたと感じている。

高校生と市内福祉施設合同研修会は、私も拝見したが、講師の青山先生の講座がとにかく楽しいと感じた。介護職はきつくて辛いものではなく、クリエイティブな仕事だと言われたのが印象的であった。利用者の方といかに楽しくコミュニケーションを取るかを教えていただけたので、介護は大変だというイメージが強い高校生に新しい視座を与えてもらった。また、福祉の研修会として高い質であったことだけでなく、地元福祉施設の職員の方と一緒に研修を受けることができたので、様々な点で可能性のある講座だと感じた。生徒の学習の場としても、地域の福祉への貢献の場としても、本校の魅力発信の場としても、継続してもらいたい事業だと思っている。

松島中学校への出前講座については、中学生の皆さんのアンケートに「上天草高校の先生たちが、生徒とすごく仲が良いんだなと感じた。」との記載があり、とても嬉しく感じた。中学生が、そのように受け止めてくれたのなら、本校の魅力発信にも繋がったと感じている。

(切通委員) 出前授業は、学力充実のために高校レベルの授業を受けるだけでなく、上天草高校にはこんな先生がいるというのを知ることできるよう取組

んだ。特に、福祉科にコミュニケーションの科目があることを知らなかったが、子どもたちも実技を交えながら教えていただきとても良かった。福祉科は志願者が少ないようだが、福祉科の学習内容を知ることができてよかった。中学生のアンケート結果も好評で、「高校の先生が目を見て話してくれた。」など成長を感じた。

学校評価などを見て、生徒も保護者も満足度が高く、先生たちが先を考えて一所懸命取り組まれているのが、生徒たちに伝わっているという印象を受けた。カリキュラム全体や起業家教育を通じて、生徒たちが楽しく学べる環境があって良いと思う。そのようなことが、中学校の早い段階で伝わるように「中学1年生の高校訪問」を実施したいが、コロナ禍で中止になっているので残念だ。

(元田CD) 認知症サポーター養成講座について、認知症を発症された祖父との付き合い方に悩んでいた生徒が、受講後に関わり方がわかったので積極的に関わるようになったと話していた。上天草の現状を考えると生徒にも地域のために意義のある取組だと感じる。

(福嶋委員) 学校評価の結果がとても良いので、大矢野中学校も上天草高校のようになりたいと思っている。また、3年生の進路が全員決まっているなど成果が出ている。保護者アンケートでも、ほとんどの方が、上天草高校に子どもを入学させて良かったと答えているので、中学校で行われる高校説明会で、そのような保護者の声を届けてもらえると、中学生の保護者の意識も変わるのではないかと感じた。

(中野委員) 今年度は「のびっこ祭」が中止となり、高校生との交流がなかった。中南小で高校生による「ポッチャ体験」の福祉講座が実施されている。福祉科として学んだことを小学生に教える、または紹介するものがあるのであれば考えてみたい。

また、小学校の給学で「ふるさとを愛する」というテーマの時間があるので、上天草高校の取組を紹介できないか考えていきたい。

(北岡委員) 中学生の起業家教育を3年間コーディネートしてきたが、その生徒たちが高校でも研究を継続していると聞き大変嬉しく思う。上天草の起業家教育は、ゼロからイチを創り出す楽しさや、協働する楽しさやチームワークを育む教育で、生徒の心に深く刻まれると思う。この取組を継続することで、本当に起業する人材が現れたりするのを楽しみにしている。

(赤瀬委員) コロナ禍の影響を受けても成果が出ている。高校と中学校で、生徒と先

生たちの交流が進んだことが大きな成果だと思う。これが長期的な視点で、地域人材の育成や上天草高校の生徒確保に繋がっていけばと考えている。

文科省の指定が終了し、自走するにあたって、コーディネーターが担ってきた役割をどのようにしていくのか、仕組みを準備しているという説明であったが詳しく知りたい。また、県教委も今後支援していくとの事だが、その内容を知りたい。

さらに、せっかくこのような事業をやっているが、今後どのようにPRしていくのかも聞きたい。

(研究主任) コーディネーターについて。今まで元田CD以外の外部人材を招聘するとき、生徒に直接指導する時間で報償費が発生していた。これを職員との打合せや外部人材との調整作業に従事していただいた時間にも、報償費を支払うことができるようにしたいと考えている。コーディネートの仕事は生徒と接する以外の時間の方が、ご苦労が多いので、なかなかお願いしづらかった。しかし、文科省の指定が外れた後は、元田さんにもそれ以外の人材にもコーディネートの機能を担っていただけるようにしたい

(清本指導主事) 今後の県教委の支援について。今まで文科省の仕組みの中でこの事業をやっていたが、上天草高校がやってきた事を継続・発展できるように、県教育委員会で新事業を用意した。(上天草高校の取組がモデルケースとなり、新事業が整備された。)

(元田CD) コーディネーターについて。上天草市の地域おこし協力隊とそのOBが団体を設立される見通しで、その団体を通じてコーディネート機能を継続・拡大していきたい。この団体のメンバーで、生徒の探究に応じた人材を迅速に見つけてあげることが可能になるとしている。

(田中学校長) PRについて。学校単独としては、ホームページの充実、パンフレットの配布などK#Amaxに限らず学校活動のPRを行っている。また、上天草市から本校振興のための支援をいただいているので、PRも含めたアイデアがあればお願いしたい。

しかし、人材育成のPRの場は成果発表会だと思っている。今年度はオンライン開催となってしまった。是非中学校の先生に、生徒たちがどれほど成長したか見てもらいたい。今年度の発表会には中学生も参加するよう企画していたが実現できなかった。次年度以降は、中学校に限らず小学校も含め生徒の様子を見ていただけるようにしたい。オンラインでの開催も実績ができたので、みなさんの協力をお願いしたい。

(企画政策課宮崎氏) 福祉課の特別授業など官民連携の高校の魅力向上に携わってきた。次年度は、部活動の活性を通じて地域との繋がりを強化する取組をお

こなう。

(須中委員) 認知症サポーター講座は、市内の小学生も受講している。一般の方にも数年ごとに受講していただくよう呼びかけています。学ぶ内容は年々アップデートしているが、根底にあるのは、認知症という病気を怖がるのではなく正しい知識をもって、身近な存在になるようにしていきたい。高校生に受講していただく取組は今後も継続していきたい。

生徒の研究成果発表会を拝見したが、同時間帯での発表のため全てを見ることができなかった。YouTube での限定配信など検討してもらいたい。

(研究主任) 先日の発表会は対面での発表で企画したので、著作権や肖像権の問題などクリアすべき課題をクリアできなかった。(安全に) 広く多くの人に見てもらえるよう工夫すると共に、観覧者とのやりとりを担保できる仕組みを模索したい。

(前方委員) この活動が一番盛り上がる時期と、コロナ禍が重なり大変な苦労があったはずだが、このように素晴らしい成果を残せていることは素晴らしいと思う。先日の生徒研究発表でも、観光をテーマにしたビジネスプランが多くあったので、生徒の皆さんが観光に興味を持ってくれたのは、K # A m a x の成果のひとつであり、今後の上天草の観光振興に繋がってほしいと思っている。

また、同じ日に行われた運営指導委員会とパネルディスカッションでも、上天草高校の取組は大変好評だった。しかし、これが関係者だけの高評価に終わっているので、上天草市内だけでなく全国にも情報発信ができれば、市内だけでなく市外からも志願者が増えるのではだろうか。今後は情報発信に力を入れるべきだと感じた。生発表にも YouTube の活用が多かったように、「K # A m a x チャンネル」を開設するのはどうか。学校での運営が難しいようであれば、天草ケーブルネットワークに協力をお願いするなど検討するとよい。

(研究主任) SNS や YouTube は安全面で不安はあるが、できる方法を天草ケーブルネットワークと連携しながら検討したい。

(松尾委員) コンソーシアムに参加して、良い取組だと感じていた。もっと危機管理情報課として、生徒の活動に携わりたかった。次年度以降も取組を続けるとのことなので、今後も協力していきたい。

### 3. 開会

(1) 校長謝辞 (田中校長)

### 3 地域人材育成のルーブリック集計（令和3年度）

		基本・1			応用・2			発展・3		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
聞く	聞（聴）く	他人の話を遮ることなく、聞くことができる。	94.2%	96.1%	他人の話を要点を押さえながら聞くことができる。	64.4%	78.0%	他人の話を要点を押さえながら聞くことができ、その文脈から相手の真意を理解できる。	42.6%	55.7%
		1年	94.2%	96.1%	2年	64.4%	78.0%	2年		
		2年	93.2%	96.6%	3年	78.7%	86.9%	3年	42.6%	55.7%
	質問する	話の内容で「わからない部分」に気づき、「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問に思うことができる。	67.3%	80.4%	話の内容で「わからない部分」に気づき、「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問に思い、質問することができる。	54.2%	59.3%	話の内容で「わからない部分」に気づき、「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問に思い、質問し、自らの理解を深めることができる。	31.1%	49.2%
		1年	67.3%	80.4%	2年	54.2%	59.3%	2年		
		2年	88.1%	88.1%	3年	47.5%	73.8%	3年	31.1%	49.2%
	メモする	他人の話を聞き、メモすることができる。	88.5%	76.5%	他人の話を聞き、要点を押さえメモすることができる。	50.8%	66.1%	他人の話を聞き、要点を押さえ関連付けながらメモすることができる。	42.6%	59.0%
		1年	88.5%	76.5%	2年	50.8%	66.1%	2年		
		2年	71.2%	81.4%	3年	70.5%	85.2%	3年	42.6%	59.0%
	態度	話を聞くとき、聞こうとする態度を示すことができる。	90.4%	86.3%	話を聞くとき、うなづいたり、相槌を打ったりするなどジェスチャーを加えながら聞くことで相手が話しやすい環境を作ることができる。	59.3%	71.2%	話を聞くとき、状況に応じてジェスチャーを加えながら聞くことで、相手が話しやすい環境を作ることができるだけでなく、話し手の問いに反応することで、話を活性化させようとする態度を示すことができる。	29.5%	50.8%
		1年	90.4%	86.3%	2年	59.3%	71.2%	2年		
		2年	98.3%	94.9%	3年	82.0%	88.5%	3年	29.5%	50.8%
話す	説明的	自分の意見や考えを整理して、論理的に説明することができる。	26.9%	29.4%	自分の意見や考えを整理して、根拠を示しながら論理的に説明することができる。	18.6%	28.8%	自分の意見や考えを整理して、客観性の高い根拠を示しながら論理的に相手を説得することができる。	14.8%	26.2%
		1年	26.9%	29.4%	2年	18.6%	28.8%	2年		
		2年	35.6%	47.5%	3年	41.0%	49.2%	3年	14.8%	26.2%
	聞き手への配慮	相手や場面にに応じて、相手に伝えることができる。	73.1%	82.4%	相手や場面にに応じて、相手に伝える内容を過不足なく伝えることができる。	28.8%	40.7%	相手や場面にに応じて、相手に伝える内容を分かりやすく過不足なく伝えることができる。	23.0%	36.1%
		1年	73.1%	82.4%	2年	28.8%	40.7%	2年		
		2年	81.4%	91.5%	3年	44.3%	57.4%	3年	23.0%	36.1%
	魅力的な話し方	聞き手がわかりやすいように、誠意ある話し方ができる。	42.3%	49.0%	聞き手がわかりやすいように、聞き取りやすい音声（声量、速さ、声の調子など）や言葉遣いを用いた話し方ができる。	49.2%	61.0%	聞き手がわかりやすいように、聞き取りやすい声（声量、速さ、声の調子など）や言葉遣いを用いた上で、大事なところを強調したり、間の取り方を工夫したりして、相手を惹きつける話し方ができる。	24.6%	44.3%
		1年	42.3%	49.0%	2年	49.2%	61.0%	2年		
		2年	66.1%	83.1%	3年	59.0%	83.6%	3年	24.6%	44.3%
	主体性	自分が発言しなければならない状況において、考えや想いを発言することができる。	65.4%	72.5%	発言しなければならない状況だけでなく、自ら積極的かつ適切に発言することができる。	30.5%	35.6%	積極的かつ適切に発言することができると同時に、参加者の発言も引き出すことができる。	13.1%	24.6%
		1年	65.4%	72.5%	2年	30.5%	35.6%	2年		
		2年	72.9%	76.3%	3年	36.1%	47.5%	3年	13.1%	24.6%
表現する	情報収集	自分の考えを表現するために必要な情報を収集する方法を知っている。	75.0%	80.4%	自分の考えを表現するために必要な情報を収集することができる。	62.7%	74.6%	様々な手段を用いて、自分の考えを表現するために必要な情報を収集することができる。	44.3%	62.3%
		1年	75.0%	80.4%	2年	62.7%	74.6%	2年		
		2年	76.3%	84.7%	3年	75.4%	91.8%	3年	44.3%	62.3%
	分析	収集したデータを適切な方法で処理することができる。	50.0%	49.0%	収集したデータを適切な方法で処理し、自らの分析と考察が為された情報にすることができる。	32.2%	44.1%	収集したデータを適切な方法で処理し、多面的な分析がなされ、深い考察が加えられている情報にし、その情報を活用することができる。	11.5%	24.6%
		1年	50.0%	49.0%	2年	32.2%	44.1%	2年		
		2年	57.6%	71.2%	3年	34.4%	49.2%	3年	11.5%	24.6%
	構成員力	一つ一つの要素を組み立て、全体として一つのものとしてまとめることができる。	42.3%	52.9%	納得できる要旨であり、理解できるように構成されたものをつくることできる。	25.4%	40.7%	一貫性のある説明がなされ、納得できる要旨であり、理解できるように構成されたものをつくることできる。	13.1%	26.2%
		1年	42.3%	52.9%	2年	25.4%	40.7%	2年		
		2年	57.6%	64.4%	3年	50.8%	60.7%	3年	13.1%	26.2%
	非言語コミュニケーション	表情や身振り手振りなどのジェスチャーを使って表現することができる。	34.6%	45.1%	相手や場面にに応じて、表情や身振り手振りなどのジェスチャーを使って表現することができる。	30.5%	33.9%	相手を惹きつけるために、相手や場面にに応じて、表情や身振り手振りなどのジェスチャーを効果的に使って表現することができる。	26.2%	44.3%
		1年	34.6%	45.1%	2年	30.5%	33.9%	2年		
		2年	49.2%	62.7%	3年	55.7%	67.2%	3年	26.2%	44.3%

#### 4 探究活動の自己評価ルーブリック

### 上天草プロジェクト 「探究活動」自己評価

班ごとの探究活動において、下の4つの場面（観点）で、自分がどのように行動できたか、4～1であてはまるものを1つ選び、回答欄に記入してください。

評価 観点	4	3	2	1
課題の設定	上天草の現状（困り事）を踏まえ、班員と協働しながら、主体的に班の課題設定に貢献した。	班員と協働しながら、主体的に班の課題設定に貢献した。	教員に促され、主体的に班の課題設定に貢献した。	教員に促され、班の課題設定に参加した。
情報の収集	班員と協働しながら、主体的に必要な情報を収集し、課題解決に十分なデータの蓄積に貢献した。	主体的に必要な情報を収集し、課題解決に十分なデータの蓄積に貢献した。	教員に促され、主体的に必要な情報を収集し、課題研究に十分なデータの蓄積に貢献した。	必要な情報を収集しようとしたが、課題研究に十分なデータの蓄積にあまり貢献できなかった。
整理・分析	班員と協働しながら、事実や事実間の因果関係を推理するなど、収集した情報から自分なりの考えを形成し、意見を述べる事ができた。	事実や事実間の因果関係を推理するなど、収集した情報から自分なりの考えを形成し、意見を述べる事ができた。	教員に促され、事実や事実間の因果関係を推理するなど、収集した情報から自分なりの考えを形成し、意見を述べる事ができた。	収集した情報を整理・分析し、自分なりの考えを形成しようとしたが、意見として表現する事ができなかった。
まとめ・表現	研究の結果を表現するにあたり、客観的で論理的な考察を示すことができ、明確な根拠（証拠）を持った結論をわかりやすく表現できるよう、積極的に活動した。	研究の結果を表現するにあたり、わかりやすく表現できるよう、積極的に活動した。	研究の結果を表現するにあたり、与えられた役割を果たす事ができた。	研究の結果を表現するにあたり、教員に促されて、与えられた役割を果たす事ができた。

令和元年度指定

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

研究開発実施報告書（3年次）

令和4年3月発行

**発行者** 熊本県立上天草高等学校

住所 〒869-3603 熊本県上天草市大矢野町中 5424

電話 0964-56-0007 FAX 0964-26-5025

**印刷所** シモダ印刷株式会社

住所 〒869-0562 熊本県宇城市不知火町長崎 240-1

電話 0964-32-3131 FAX 0964-33-1598

文部科学省 地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)  
熊本県立上天草高等学校&上天草魅力化コンソーシアム



**熊本県立上天草高等学校**

<http://sh.higo.ed.jp/kamiamakusa/>  
〒869-3603 熊本県上天草市大矢野町中5424番地

TEL **0964-56-0007**

FAX **0964-26-5025**

